

伊勢志摩定住自立圏 共生ビジョン



平成 26 年 6 月 16 日 策定

平成 29 年 6 月 30 日 第 3 回変更

平成 27 年 6 月 11 日 第 1 回変更

平成 29 年 10 月 17 日 第 4 回変更

平成 28 年 6 月 30 日 第 2 回変更

平成 30 年 6 月 25 日 第 5 回変更

伊勢市

CONTENTS

第1章 定住自立圏共生ビジョンにおける基本的事項

- 1 定住自立圏共生ビジョンの策定趣旨…………… 1
- 2 定住自立圏及び市町の名称…………… 1
- 3 定住自立圏共生ビジョンの期間…………… 1

第2章 圏域の概況

- 1 各市町の人口と面積…………… 2
- 2 各市町の位置…………… 2
- 3 圏域を構成する市町の概要…………… 3

第3章 圏域の将来像

- 1 圏域の現状と主な課題…………… 7
- 2 目指すべき将来像…………… 16
- 3 圏域人口の将来展望…………… 16
- 4 将来像の実現に向けて…………… 17

第4章 定住自立圏形成協定に基づき推進する具体的取組

ア 生活機能の強化に係る政策分野

- ①休日・夜間応急診療所の維持運営…………… 19
- ②病院群輪番制の維持…………… 20
- ③医療受診適正化の啓発…………… 21
- ④在宅医療・介護連携の推進…………… 22
- ⑤病児・病後児の保育施設の運営…………… 23
- ⑥ファミリーサポートセンターの利用促進…………… 24
- ⑦伊勢志摩総合地方卸売市場の経営基盤の確立…………… 25
- ⑧中小企業勤労者及び事業主への勤労者福祉制度の充実…………… 26
- ⑨企業立地の推進…………… 27
- ⑩イベント等の誘致・開催…………… 28
- ⑪創業に関する支援…………… 29
- ⑫鳥獣被害防止対策…………… 30
- ⑬伊勢志摩地域への旅客誘致…………… 31
- ⑭伊勢熊野地域への旅客誘致…………… 32
- ⑮伊勢志摩国立公園の自然保護、PR、地域振興…………… 33

イ 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野

- ①廃止代替路線バスの維持…………… 34
- ②コミュニティバス運行の連携…………… 35
- ③県道鳥羽松阪線の建設促進…………… 36
- ④県道伊勢南島線の建設促進…………… 37
- ⑤宮川架橋の建設促進…………… 38
- ⑥伊勢志摩連絡道路の建設促進…………… 39
- ⑦伊勢地域周辺における交通渋滞の緩和…………… 40
- ⑧地産地消の推進、地場産品のPR…………… 41
- ⑨圏域内外への地域情報等の情報発信…………… 42
- ⑩出会い・結婚に関する情報提供等…………… 43
- ⑪図書館サービスの新たなしくみ構築…………… 44
- ⑫宮川流域情報の集約及び提供等…………… 45

ウ 圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野

- ①職員研修の合同開催…………… 46
- ②教職員研修講座の実施…………… 47
- ③青少年健全育成の合同研修会の開催…………… 48

第1章

定住自立圏共生ビジョン における基本的事項

1 定住自立圏共生ビジョンの策定趣旨

定住自立圏共生ビジョンは、定住自立圏構想推進要綱（平成20年総行応第39号）及び定住自立圏形成協定に基づき、定住自立圏全体で人口定住のために必要な生活機能を確保し、地域の活性化と発展を図るため、伊勢志摩圏域が目指す将来像及びその実現のために必要な具体的取組等を明らかにするものです。

また、本共生ビジョンは、圏域の定住自立圏構想の取組の推進にあたり、総務省をはじめ、国の各府省の支援の根拠となる計画です。

2 定住自立圏及び市町の名称

（1）定住自立圏の名称

伊勢志摩定住自立圏

（2）圏域を形成する市町の名称

伊勢市、鳥羽市、志摩市、玉城町、度会町、大紀町、南伊勢町、明和町

3 定住自立圏共生ビジョンの期間

平成26年度から平成30年度までとし、毎年度所要の変更を行います。

第2章

圏域の概況

1 各市町の人口と面積

市町名	人口（人）	面積（km ² ）
伊勢市	130,271	208.53
鳥羽市	21,435	108.03
志摩市	54,694	179.72
玉城町	15,297	40.94
度会町	8,692	134.97
大紀町	9,846	233.54
南伊勢町	14,791	242.98
明和町	22,833	40.92
圏域の合計	277,859	1,189.63

※人口は平成22年国勢調査、面積は三重県市町要覧（平成25年度版）の数値を用いています。

2 各市町の位置



3 圏域を構成する市町の概要

伊勢市 美し風起つ回帰新生都市

はなてらすちゃん

伊勢市は、三重県の中東部、伊勢平野の南端部に位置する、比較的温暖な気候に包まれた都市です。北は伊勢湾に面し、中央には日本一の清流を誇る宮川や五十鈴川、勢田川が流れ、また、東から南にかけては朝熊ヶ岳、神路山、前山、鷲嶺が連なり、西には大仏山丘陵が広がる緑豊かな都市でもあります。伊勢志摩国立公園の玄関口として、豊かな自然と美味しい食材に恵まれた本市には、歴史と文化に富んだ名所・旧跡も多く、魅力ある地域資源があふれています。また、古くから「お伊勢さん」「日本人の心のふるさと」と呼び親しまれてきた伊勢神宮を擁し、神宮御鎮座のまちとして栄えてきました。



内宮宇治橋



伊勢うどん



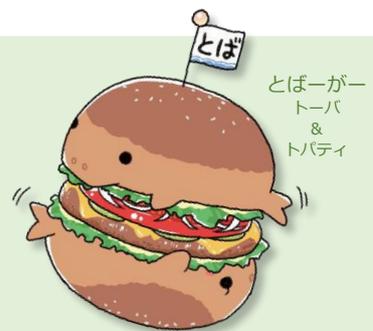
宇治山田駅

鳥羽市 真珠のようにきらり輝く鳥羽

鳥羽市は、リアス式海岸が織りなす半島部と4つの有人離島から構成された風光明媚なまちです。市全域が伊勢志摩国立公園に指定され、新鮮な海の幸や温泉、多様なレジャーを楽しみに、多くの観光客が当地を訪れています。

木曾三川から流れる淡水と伊勢湾の海水が融合する海には豊かな漁場が広がり、全国で最も「海女」が多いこと、御木本幸吉が世界で初めて真珠養殖に成功したことなどが有名です。

市の将来像である「真珠のようにきらり輝く鳥羽」には、このような豊かな資源とともにある私たちの営みに一層磨きをかけ、まちの個性として伸ばし、その輝きを大きく広げていこうという思いが込められており、充実した子育て支援・定住策を背景に、その暮らしやすさが見直され始めています。



とばーがー
トーパ
&
トパティ

©はっとりみつる



市営定期船「かがやき」



鳥羽マリンターミナル



海女

志摩市 新しい里海のまち・志摩

志摩市は、三重県の東南部に位置し、北部は伊勢市及び鳥羽市に、西部は南伊勢町に接し、南部及び東部は太平洋に面しています。

市全域が伊勢志摩国立公園に指定され、英虞湾、的矢湾といったリアス式の海岸が特徴的で、湾内をはじめ、大小の島々も点在する自然豊かな地域で、海の青、山の緑に輝く美しいまちです。また、古くから豊かな海の幸を都に献上する「御食つ国」として知られ、海、山の資源を生かした水産業や農業、そして観光業が営まれています。

このように人と自然とが共生する姿を「新しい里海のまち」と呼び、ここに住む人々の優しさや豊かな自然とふれあえる魅力ある「住んでよし、訪れてよしの志摩市」を目指しています。



伊勢えび祭



御田植祭



志摩の恵み

玉城町 だれもが安心して、元気に暮らせるまち ふるさと玉城

玉城町は伊勢平野の南部に位置し、東は伊勢市に、西は多気町に境し、南は国東（くづか）山系をへだてて度会町に、北は明和町に接する自然環境豊かな町です。

古来より伊勢参宮の宿場町として、また、古来陸上交通の要地で田辺（たぬい）の丘を通って大和を結ぶ初瀬街道と外城田の丘を通る熊野街道（世界遺産熊野古道出立の地）の起点をなす要衝として栄えていました。

町の中央にある田丸城跡は、春には桜、夏にはお堀に咲く大賀ハスで彩られ、人々の目を楽しませています。また、天守跡からは、眼下に広がる田園を望み、恵まれた自然のなかに農業、工業、商業のさまざまな息吹を感じ取っていただくことができます。



タームくん



的山からの眺望



大賀ハス



田園風景

度会町

ふるさとを生きし、清流と緑と笑顔が輝くまち！

豊かな森林を源に、町の東西を「宮川」、南北を「一之瀬川」が流れる山紫水明の地「度会町」は、神話倭姫命（やまとひめのみこと）の伝承や、伊勢神宮の社殿の屋根を葺く萱の生産地である御萱場（おかやば）など、伊勢神宮と深いかわりのある町です。清流宮川の河畔に広がる「宮リバー度会パーク」は、春には桜並木の名所として、夏は遊水プールでにぎわい、秋は紅葉と銀杏のオータムゾーンが憩いの場となるなど、四季折々の見どころが満載で、県内外からの交流拠点として利用されています。また、豊かな香りと深い渋味を醸し出す「わたらい茶」は、古くから多くの方々に親しまれており、全国茶品評会において日本一に輝くなど、数々の賞を受賞し続けているまちの特産品です。



ティーナ



宮リバー度会パーク



宮川



遊水プール・鏡

大紀町

人の命は何よりも大事 子供は町の宝 お年寄りも町の誇り

大紀町は、三重県の中央南部に位置し、比較的温暖な地域ですが、全国屈指の多雨地帯としても知られています。総面積の約91%を山林が占める地形は急峻で、町内を流れる一級河川の宮川や大内山川、藤川に沿って民家と耕地が散在する農山間部と海に面した僅かな土地に民家が集中する沿岸部とに分かれています。

その海・山が織りなす自然は豊かで美しく、町内のほぼ全域が奥伊勢宮川峡県立自然公園に指定されており、また伊勢志摩国立公園と吉野熊野国立公園の間に位置する風光明媚な町として知られています。また、町内には、古くから熊野詣の巡礼道として栄えた熊野古道も随所に残されており、伊勢神宮の別宮である瀧原宮をはじめ、三瀬坂峠や世界遺産に登録されている熊野古道ツヅラト峠があります。



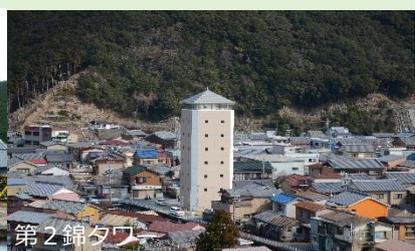
たいちゃん・きーちゃん



トロピカルガーデン



しだれ桜



第2錦タワー

南伊勢町 海、山と風がそよぐ自然豊かなまち

南伊勢町は、伊勢神宮正殿の真南に当たり、神宮林に接したまちです。深く入り込んだ湾を生かして、古くから漁業や製塩、あるいは海上交通の拠点として栄え、海とともに生きてきました。現在も三重県下一の水揚げ高を誇る新鮮な魚介類が自慢です。また、平地の少ない中で貴重な田畑を大切に耕し、日当たりの良い斜面を柑橘栽培に生かすなど、海・山・川を暮らしの資源としてきました。「ハートの入り江」の見える鵜倉園地をはじめ、雄大な景色を感じることができる展望台も各地にあり、どの山に登っても海が見えるハイキング道も魅力的です。そして、「人」。人と人との心がつながり、お互いに支え合っている、笑顔で思いやりのある、そんなまちです。



たいみー



火振り神事



方座浦浅間祭



ハートの入り江 (かさらぎ池)

明和町 歴史・文化と自然が輝き、快適でこころ豊かな「和」のまち明和

明和町は、伊勢市、松阪市、玉城町、多気町に接した東西約 6km 南北約 11km、面積 40.92km²の町で、東西では、国道 23 号と県道 37 号が横断しており、南北には、主要幹線道である明和中央線が縦断しています。鉄道は、近畿日本鉄道山田線が東西に横断し、斎宮駅、明星駅を有しています。

北部は、伊勢湾に面し大淀海岸、下御糸海岸があり、ひじきや貝などの水産業も盛んであり、町全体では稲作を中心とする農業が盛んな地域となっています。

また、南北約 0.7km、東西約 2km の約 137.1ha に及ぶ「斎宮跡」があり、昭和 54 年 3 月に国史跡に指定されたことから、観光にも力を入れています。



めい姫



斎王まつり



各所で咲く四季の花



平野部の水田

第3章

圏域の将来像

第3章 圏域の将来像

1 圏域の現状と主な課題

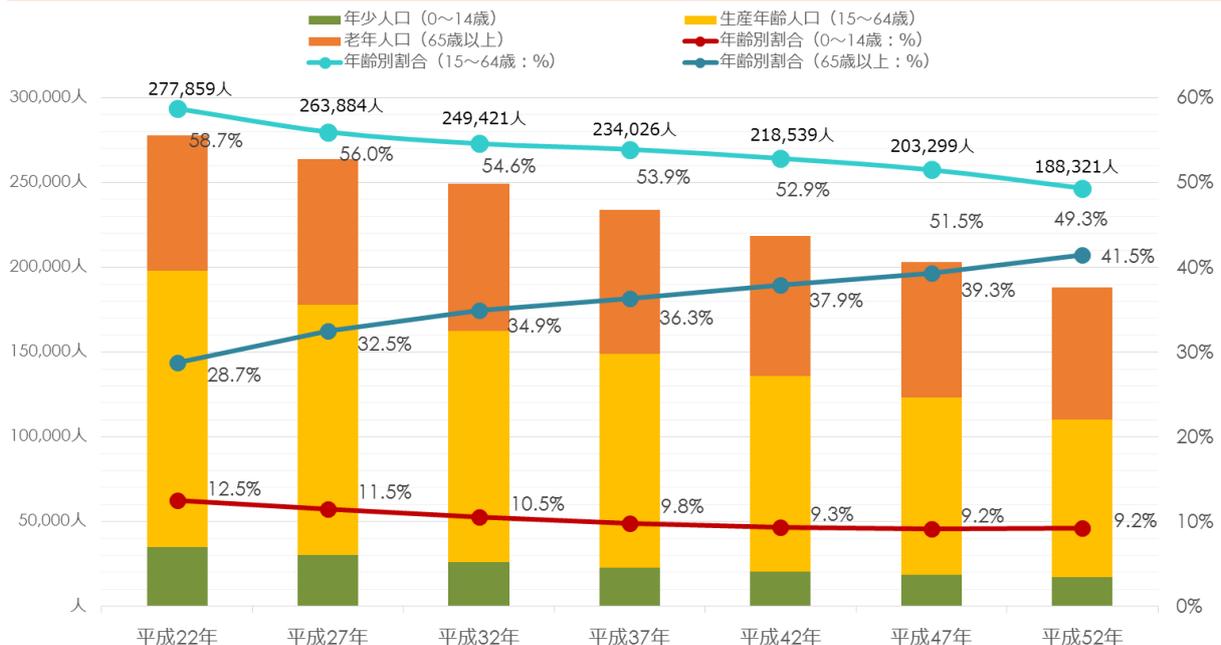
(1) 人口減少、少子高齢化

伊勢志摩圏域における人口は、昭和60年の309,108人（昭和60年国勢調査）をピークに減少傾向にあり、平成22年には277,859人（平成22年国勢調査）となっています。

また、年齢3区分別の人口推移では、いずれの市町においても老年人口（65歳以上）の構成比が上昇しており、圏域全体における老年人口（65歳以上）構成比は平成22年で28.6%と、昭和60年と比較すると15ポイント以上上昇するなど、急速な高齢化が進行しています。一方、年少人口（0～14歳）及び生産年齢人口（15～64歳）の構成比は、それぞれ12.5%、58.5%と、昭和60年と比較するとそれぞれ約8ポイント下降しています。

国立社会保障人口問題研究所による平成22年国勢調査人口を基準とした人口推計では、【図表1】及び【図表2】のとおり、平成52年における圏域人口は約18万8千人まで減少し、老年人口（65歳以上）比率は約42%まで上昇し、年少人口（0～14歳）の構成比は、9%程度となり、また生産年齢人口（15～64歳）の構成比は50%を割り込むと見込まれています。これらのことから、人口減少及び少子高齢化に対応したまちづくりを進めるとともに、社会を支える世代の定住を促進させることが課題であると考えられます。

【図表1】 年齢3区分人口と年齢別割合の推移



※『日本の地域別将来推計人口』（平成25年3月推計）の数値を用いて作成。

※平成22年数値については、『日本の地域別将来推計人口』による基準人口を用いているため、他の公表資料における数値との相違があります。

※年齢別割合については、四捨五入の処理を加えていることから、合計が100%にならない年があります。

【図表 2】各市町別年齢 3 区分人口数の推移

(単位：人)

区分	市町名	平成 22 年	平成 32 年	平成 42 年	平成 52 年
年少人口 (0～14 歳)	伊勢市	16,986	13,475	10,500	8,956
	鳥羽市	2,469	1,592	1,156	937
	志摩市	6,213	4,033	2,831	2,228
	玉城町	2,444	2,148	1,887	1,815
	度会町	1,166	889	698	595
	大紀町	944	596	413	320
	南伊勢町	1,300	744	504	400
	明和町	3,308	2,741	2,291	2,082
	計	34,830	26,218	20,280	17,333
生産年齢人口 (15～64 歳)	伊勢市	79,313	67,561	58,458	47,418
	鳥羽市	12,576	9,801	7,570	5,854
	志摩市	30,882	24,346	19,127	14,133
	玉城町	9,375	8,973	8,718	7,860
	度会町	5,161	4,277	3,634	3,005
	大紀町	4,965	3,632	2,785	2,082
	南伊勢町	7,103	5,037	3,597	2,498
	明和町	13,848	12,564	11,623	10,072
	計	163,223	136,191	115,512	92,922
老年人口 (65 歳以上)	伊勢市	33,972	37,946	36,970	36,126
	鳥羽市	6,390	7,001	6,684	5,805
	志摩市	17,599	18,753	17,410	15,762
	玉城町	3,477	4,273	4,464	4,876
	度会町	2,365	2,675	2,609	2,430
	大紀町	3,938	3,870	3,260	2,676
	南伊勢町	6,388	5,809	4,622	3,533
	明和町	5,678	6,685	6,728	6,858
	計	79,807	87,012	82,747	78,066
合計	伊勢市	130,271	118,982	105,928	92,500
	鳥羽市	21,435	18,394	15,410	12,596
	志摩市	54,694	47,132	39,368	32,123
	玉城町	15,297	15,394	15,069	14,551
	度会町	8,692	7,841	6,941	6,030
	大紀町	9,846	8,098	6,458	5,078
	南伊勢町	14,791	11,590	8,723	6,431
	明和町	22,833	21,990	20,642	19,012
	計	277,859	249,421	218,539	188,321

※平成 22 年数値については、『日本の地域別将来推計人口』による基準人口を用いているため、年齢 3 区分における数値の計が合計と相違する場合があります。

(2) 地域資源の活用・地域の活性化

伊勢志摩圏域は、美しいリアス式海岸が広がる海の青と山々の鮮やかな緑に包まれた伊勢志摩国立公園を有し、また圏域内を水質日本一に選定された清流宮川が貫流するなど、県内屈指の自然豊かな地域です。これら豊かな自然を活用し、農業・林業・漁業・畜産業・酪農業などが営まれています。特に漁業については、【図表4】のとおり県内随一の漁獲量（海面漁業）を誇る南伊勢町を筆頭に、圏域内で県内全体の約7割を占めています。

また、多くの文化的資源にも恵まれ、なかでも伊勢神宮は圏域の文化や民俗に深く関わり、圏域に一体感を与える重要な要素となっています。

このように伊勢志摩圏域は、風光明媚な自然景観と多くの文化的資源が相まって、全国有数の観光地としても発展してきました。

今後もさらに圏域内の豊かな地域資源を保全及び活用することにより、圏域全体の活性化に結びつけることが課題であると考えられます。

【図表3】伊勢志摩圏域における主な名所・特産品等

市町名	名所・旧跡	名産・特産品	祭・行事
伊勢市	伊勢神宮、神宮徴古館（農業館、美術館）、せんぐう館、伊勢志摩スカイライン、金剛證寺、おはらい町、伊勢河崎商人館、伊勢古市参宮街道資料館、二見浦、夫婦岩、賓日館、離宮院跡、山田奉行所記念館	伊勢うどん、伊勢玩具、伊勢一刀彫、伊勢根付、伊勢春慶、伊勢和紙、伊勢沢庵、餅菓子、和菓子、酒粕漬け、穴子巻、鮫のたれ、アサリ、ひじき、黒海苔、青さ混ぜ海苔、蓮台寺柿、横輪芋、朝熊小菜、トマト、イチゴ、メロン、温室梨、キク	[2~3月] おひなさまめぐり in 二見 [4月] 宮川桜まつり [5・11月] 伊勢楽市 [7月] 伊勢神宮奉納全国花火大会、二見七夕星まつり [8月] 外宮さんゆかたで千人お参り [10月] 神嘗奉祝祭、伊勢まつり
鳥羽市	鳥羽水族館、ミキモト真珠島、イルカ島、海の博物館、鳥羽展望台、海女文化資料館、常安寺、丸興山庫蔵寺、青峯山正福寺、九鬼嘉隆の首塚洞塚、金刀比羅宮鳥羽分社、海士潜女神社、神明神社（石神さん）、伊射波神社、彦瀧大明神（彦瀧さん）、神島灯台、監的哨跡、菅島灯台、鳥羽城三の丸広場、鳥羽大庄屋かどや、伊生子清白の家	伊勢海老、鮑、鯛、サザエ、牡蠣、岩カキ、蛸、ちりめんじゃこ、若布、ひじき、ところてん、真珠製品、干物、とばーがー、きんこ、アラメ、鳥羽弁当、島むすび、伊勢えび開き干し	[1月] ゲーター祭 [旧1月] 御船祭 [2月] 八幡祭 [4月] 鳥羽春まつり [5月] 石神さん春祭り [6月] 赤崎祭り [7月] しろんご祭り、棒練り、鳥羽みなとまつり、相差天王くじら祭、鳥羽ビルフィッシュトーナメント [8月] じんじん船、おいやれ [10月] 鳥羽クラフト展、魚魚まつり [11月] 二船祭

市町名	名所・旧跡	名産・特産品	祭・行事
志摩市	横山展望台、石仏(潮仏)、ともやま公園、鼻かけえびす、おうむ岩、伊雑宮、志摩国分寺、堂の山汗かき地蔵、爪切不動尊、金比羅山、志摩スペイン村、合歓の郷、大王埼灯台、安乗埼灯台	伊勢えび、的矢かき、あのりふぐ、あわび、真珠、宝彩えび、てこね寿司、かつお、干物、イチゴ、あおさ、南張メロン、きんこ(煮切り干し)、きんこ芋を使った焼酎「志州隼人」	[6月] 伊雑宮御田植祭、伊勢えび祭 [旧暦6月] 潮かけ祭り [9月] 安乗の人形芝居、わらじ祭り
玉城町	田丸城址、村山龍平記念館、アスパア玉城(玉城弘法温泉)	ウィンナーソーセージ(玉城豚100%)、しめ縄、苺、梨、柿	[1月] 山神獅子舞神事 [旧暦1月] 石風呂神事 [2月] 田宮寺十一面観音切観音 [4月] 桜まつり [8月] 夏まつり(商工会) [10月] アスパア玉城秋まつり
度会町	木造十一面観音立像、久具都比売神社、おうむ石、乙女岩、一之瀬城址、獅子ヶ岳、宮リバー度会パーク、遊水プール・鏡、川上の清水、神宮御萱場、牛草山、長命寺	茶、椎茸、ブルーベリー	[2月] 棚橋お頭神事、下久具お頭神事、一之瀬獅子神楽 [4月] 宮リバー度会パーク春まつり [8月] 麻加江羯鼓踊 [9月] わたらいフェスタ in 鏡(商工会) [10月] 太鼓祭「天鼓」
大紀町	滝原宮、頭之宮四方神社、熊野古道(ツツラト峠、荷坂峠)、大平つつじ山、原始の不動滝「紀勢笠木溪谷」、向ヶ浜遊パーク、山海の郷紀勢、枝垂れ桜	松阪牛(七保牛)、タイ、ハマチ、ヒラメなどの養殖漁業、椎茸、酪農	[1月] 八幡祭 [旧暦1月] 赤船祭 [7月] おんべ祭、天王祭、滝原宮夏祭り [8月] 錦花火大会 [11月] 頭之宮四方神社例大祭、大紀ふれあいまつり [3月] 錦ぶりまつり
南伊勢町	五ヶ所湾、剣峠、愛洲移香齋生誕地、五ヶ所城址、愛洲の館、南海展望公園、鶴倉園地(ハートの入り江)、中ノ磯展望台、ニラハマ展望台、倭姫命腰掛岩、西方寺(奈津観音堂)、河村瑞賢生誕地、瑞賢公園、道方の浮島	あおさ、青海苔、伊勢えび、鯛、マグロ、ハマチ、ヒラメ、サザエ、アワビ、カキ、檜扇貝、柑橘類、玉子、五ヶ所小梅、押し寿司、カツオの生節、干物	[1月] 竈方祭 [1月・2月] 獅子舞(各地区) [6月・7月] 浅間祭 [7月] 天王祭、祇園祭 [8月] かんこ踊、剣祖祭 [11月] わくドキ南伊勢 [12月・1月] ルート260ライトアップ
明和町	斎宮跡、斎王の森、水池土器製作遺跡、隆子女王の墓、斎宮のハナショウブ群落	御糸織、伊勢ひじき、黒のり、大根、アサリ、ばか貝、トマト、メロン	[6月] 斎王まつり [7月~8月] 大淀祇園祭

資料出所：三重県市町要覧「平成23年度版」及び「平成25年度版」を基本とし、各市町聴き取りにより作成

【図表 4】海面漁業漁獲量及び主な魚種

市町名	海面漁業漁獲量	主な魚種
伊勢市	5,917 t	かつお類、まぐろ類、貝類、さめ類、あなご類
鳥羽市	21,159 t	いわし類、いかなご、あじ類、海藻類、さば類
志摩市	12,230 t	かつお類、さば類、まぐろ類、ぶり類、海藻類
玉城町	-	-
度会町	-	-
大紀町	1,951 t	いわし類、さば類、あじ類、ぶり類、いか類
南伊勢町	75,858 t	さば類、いわし類、かつお類、まぐろ類、あじ類
明和町	414 t	貝類、いわし類、いかなご、あなご類
圏域計	117,529 t	
(参考) 県全体	168,870 t	

資料出所：農林水産省「平成 23 年海面漁業生産統計調査」

【図表 5】圏域内における観光レクリエーション入込客数

市町名	入込客延数	主な施設等
伊勢市	16,998,460 人	神宮（内宮・外宮）、おかげ横丁、二見興玉神社
鳥羽市	4,078,456 人	鳥羽市旅館街、鳥羽水族館、パールロード鳥羽展望台
志摩市	3,738,902 人	志摩スペイン村、合歓の郷、志摩マリランド
玉城町	311,582 人	アスピーア玉城（アグリ・ふれあいの館）
度会町	119,781 人	宮リバー度会パーク、遊水プール鏡
大紀町	460,527 人	頭之宮四方神社、木つつ木館、瀧原宮
南伊勢町	170,582 人	海岸景観（釣り・レジャー・体験含む）
明和町	163,272 人	斎宮歴史博物館、いつきのみや歴史体験館、大淀海岸

資料出所：三重県観光レクリエーション入込客数推計書（平成 24 年）

（3）産業及び雇用

平成 22 年国勢調査結果によれば、【図表 6】のとおり伊勢志摩圏域における産業別の就業人口は、農林水産業等の第 1 次産業の就業人口は 8,927 人（6.8%）、サービス業、卸売・小売業、飲食店等の第 3 次産業は 84,309 人（64.2%）となっており、第 1 次産業については県と比較し、3.1 ポイント、第 3 次産業については 4.2 ポイント高くなっています。一方、製造業等の第 2 次産業の就業人口は 33,771 人（25.7%）で県と比較し 5.4 ポイント低くなっています。

平成 17 年と平成 22 年を比較すると、伊勢志摩圏域における就業人口は約 142,000 人から約 131,000 人と約 11,000 人減少し、第 1 次産業及び第 2 次産業においては就業者割合が、それぞれ 1.8 ポイント、2.4 ポイント低くなっています。特に第 1 次産業については、従事者の高齢化及び後継者不足の問題が顕著となっており、担い手の育成という課題に対応することが求められています。【図表 7】【図表 8】

また、雇用については、職種や経験・資格などにおける求人ニーズと求職ニーズのズレによる、いわゆる“雇用のミスマッチ”が課題となっており、その解消に向けての取組が求められています。【図表9】

【図表6】産業別就業者の推移

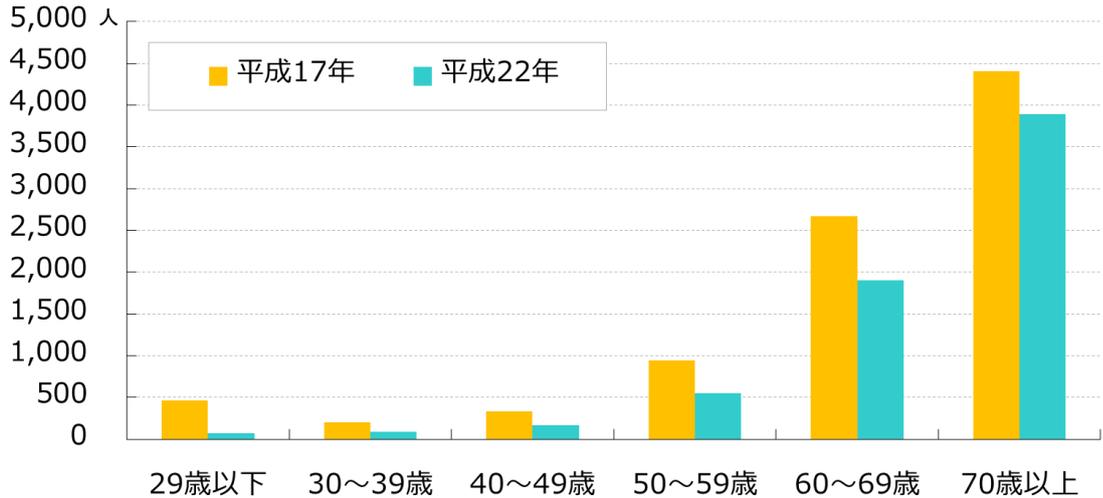
(単位：人、%)

市町名	第1次産業		第2次産業		第3次産業		分類不能		合計
	従業者数	割合	従業者数	割合	従業者数	割合	従業者数	割合	
伊勢市	2,443	3.7	19,376	29.5	43,112	65.7	716	1.1	65,647
鳥羽市	1,790	15.0	2,123	17.7	7,868	65.7	193	1.6	11,974
志摩市	3,426	12.1	6,447	22.9	18,273	64.7	88	0.3	28,234
玉城町	759	9.8	2,828	36.5	4,088	52.7	81	1.0	7,756
度会町	385	8.5	1,776	39.0	2,374	52.1	20	0.4	4,555
大紀町	599	12.0	1,687	33.8	2,703	54.1	5	0.1	4,994
南伊勢町	1,778	23.7	1,777	23.7	3,891	51.9	52	0.7	7,498
明和町	1,003	8.6	3,988	34.2	6,393	54.9	269	2.3	11,653
圏域計	12,183	8.6	40,002	28.1	88,702	62.3	1,424	1.0	142,311
(参考) 県全体	45,103	4.9	306,113	33.2	557,537	60.4	13,869	1.5	922,622

市町名	第1次産業		第2次産業		第3次産業		分類不能		合計
	従業者数	割合	従業者数	割合	従業者数	割合	従業者数	割合	
伊勢市	1,896	3.1	16,752	27.2	40,912	66.4	2,075	3.4	61,635
鳥羽市	1,325	12.2	1,814	16.7	7,100	65.3	627	5.8	10,866
志摩市	2,489	9.8	4,838	19.1	17,150	67.6	897	3.5	25,374
玉城町	538	6.9	2,650	34.1	4,249	54.6	341	4.4	7,778
度会町	220	5.1	1,598	37.3	2,435	56.9	29	0.7	4,282
大紀町	420	9.8	1,373	32.1	2,486	58.0	4	0.1	4,283
南伊勢町	1,317	21.5	1,268	20.7	3,507	57.2	40	0.6	6,132
明和町	722	6.6	3,478	31.6	6,470	58.8	342	3.0	11,012
圏域計	8,927	6.8	33,771	25.7	84,309	64.2	4,355	3.3	131,362
(参考) 県全体	33,016	3.7	278,346	31.1	536,802	60.0	46,933	5.2	895,097

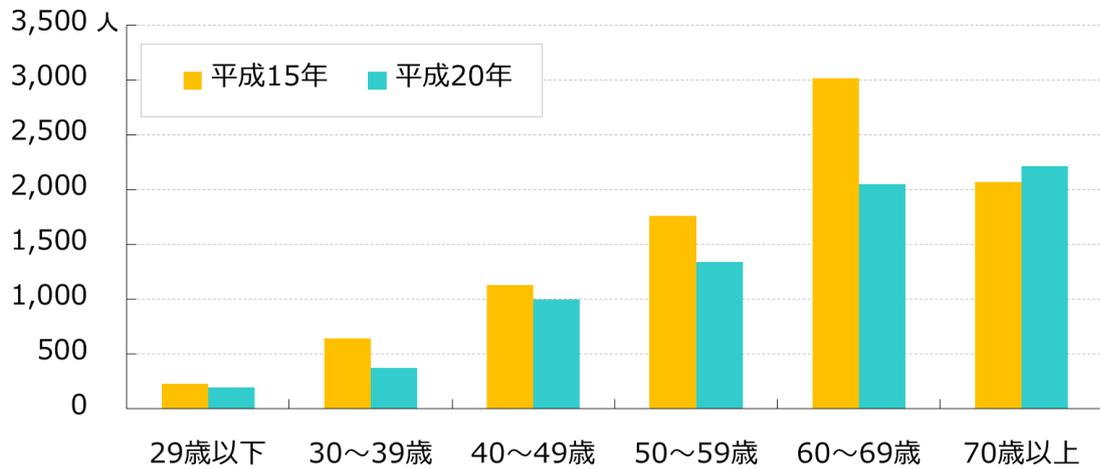
資料出所：総務省統計局「平成17年国勢調査報告」「平成22年国勢調査報告」

【図表7】伊勢志摩圏域における販売農家の年齢階層別農業就業人口



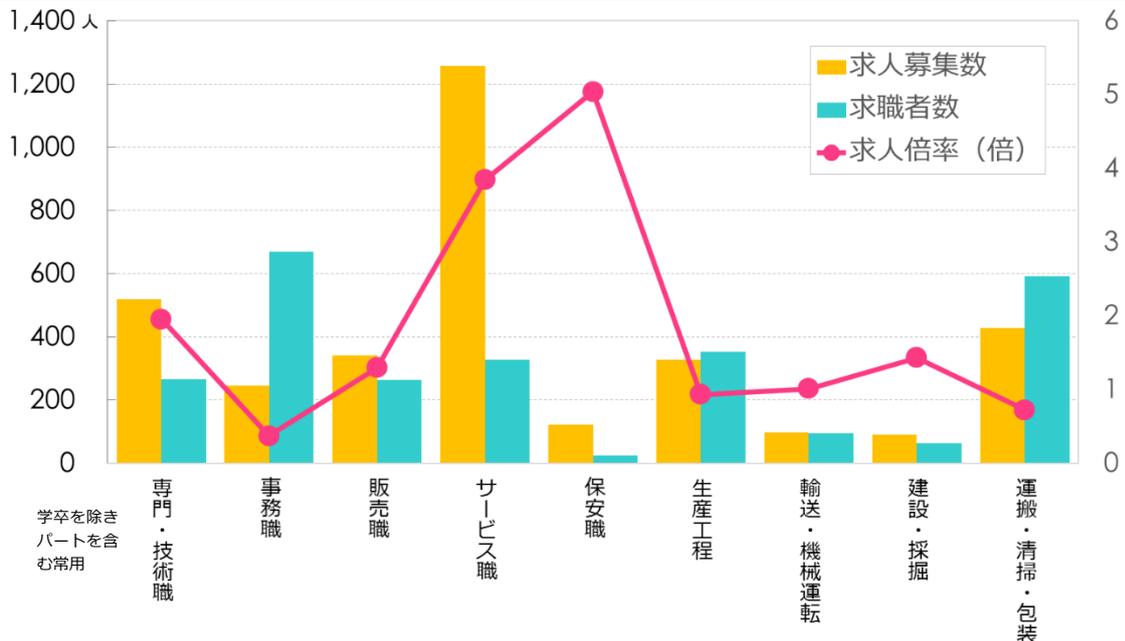
資料出所：農林水産省「農林業センサス報告書（農林業経営体調査）」※自営農業に主に従事した人のみ

【図表8】伊勢志摩圏域における年齢階層別漁業就業者数



資料出所：農林水産省「漁業センサス報告書（漁業就業者統計）」

【図表9】（参考）ハローワーク伊勢管内における求人・求職バランスシート



資料出所：三重労働局「求人・求職バランスシート（平成25年12月）」

(4) 生活機能の確保

①地域医療

伊勢志摩サブ保健医療圏^{*}の総人口は、減少傾向にあります。高齢者人口の増加により、入院患者数については、平成37年頃までは増加することが予測されます。医療ニーズは後期高齢者へのシフトが進行することから、急性期医療だけでなく、回復期や慢性期医療、さらには在宅医療や介護福祉に関しても将来的にニーズが増加することが予測されます。また、疾患別では、救急医療や高度急性期医療の必要性が高い循環器系疾患の入院患者の増加が予測されます。

伊勢志摩サブ保健医療圏における初期救急医療については、伊勢市休日夜間応急診療所、鳥羽市休日夜間応急診療所、志摩市休日夜間応急診療所において対応しています。休日・夜間の病院群輪番体制については、伊勢赤十字病院と市立伊勢総合病院の二つの病院が担っており、また急性期医療については、伊勢赤十字病院（伊勢市）、市立伊勢総合病院（伊勢市）、県立志摩病院（志摩市）の3病院が担っています。

伊勢赤十字病院については、救命救急センターを中心として高度な救急医療を担う三次救急医療機関及び小児医療の二次救急病院、地域医療支援病院に指定されており、平成24年1月に移転開院して、伊勢志摩地域だけでなく県南部の中核病院として、広範囲に受け入れる体制整備がなされつつあります。また、平成24年2月から県ドクターヘリを導入し、伊勢赤十字病院と三重大学医学部附属病院が2か月交代で基地病院を担っています。

しかしながら、休日・夜間の病院群輪番体制が伊勢赤十字病院と市立伊勢総合病院との分担割合が5対1となっていることから、伊勢赤十字病院が二次救急の対応も必要となる病院群輪番体制の大部分を担当しなければならないなど、救急医療機能についても伊勢赤十字病院へ集中しているのが現状です。なお、市立伊勢総合病院については、平成30年の新病院開院に向け、現在、整備を進めています。

※伊勢志摩サブ保健医療圏

三重県では、市町を越えて、高度で特殊な医療を除く一般的な入院医療を提供する区域として、北勢・中勢伊賀・南勢志摩・東紀州の4つの二次保健医療圏を設定している。さらに、住民の生活圏等を考慮し南勢志摩保健医療圏に、伊勢市・鳥羽市・志摩市・玉城町・度会町・南伊勢町の3市3町からなる伊勢志摩サブ保健医療圏を設定している。

【図表 10】伊勢志摩圏域における市町別医療施設数及び病床数（平成 26 年 3 月 31 日現在）

市町名	病院	医科診療所	歯科診療所	病床数
伊勢市	4	129	80 (2)	1,556
鳥羽市	0	21	7	11
志摩市	3	48	29	508
玉城町	1	10	7	69
度会町	0	6	3	0
大紀町	0	12	4 (1)	0
南伊勢町	1	8 (2)	6	91
明和町	2	15	6	312
総数	11	249	142	2,547

資料出所：伊勢保健所及び松阪保健所から聴き取りの上、作成

②公共交通

(ア) 鉄道路線

伊勢志摩圏域における鉄道路線については、JR 参宮線・紀勢線、近畿日本鉄道山田線・鳥羽線・志摩線が通っており、両鉄道会社が乗り入れる伊勢市駅までは、名古屋から1時間20分程度、大阪から1時間40分程度でアクセス可能です。

- ◆JR線の駅が所在する市町：伊勢市、鳥羽市、玉城町、大紀町
- ◆近鉄線の駅が所在する市町：伊勢市、鳥羽市、志摩市、明和町

(イ) 自動車道路網

高速道路は、圏域内を伊勢自動車道、紀勢自動車道が通っており、玉城IC、伊勢西IC、伊勢IC、大宮大台IC、紀勢大内山ICの5つのICからの利用が可能です。伊勢市中心部からのアクセスは、名古屋まで約1時間20分（伊勢自動車道、東名阪自動車道、伊勢湾岸自動車道）、大阪まで約2時間20分（伊勢自動車道、新名神高速道路）、京都まで約1時間30分（伊勢自動車道、新名神高速道路）でアクセス可能です。

主要幹線道路は、伊勢二見鳥羽ライン（自動車専用道路）、国道23号、国道42号、国道167号、国道260号が地域内で循環経路を形成しています。このことから、伊勢市から圏域内の大半が概ね1時間以内で移動可能であり、また平成25年9月には幹線道路である伊勢志摩連絡道路※（鳥羽市白木～伊勢市二見町間）が開通し、圏域内の交通利便性が高まりました。

しかしながら、住民生活、産業及び経済活動を支える交通インフラの整備については、圏域内外の円滑な広域交通を確保するため、今後も主要幹線道路の整備促進や生活圈相互を結ぶ幹線道路の整備が求められています。

(ウ) 交通空白地

交通が不便な地域において、コミュニティバスの運行、路線バスの維持など、圏域市町それぞれで取組を行っています。コミュニティバスの運行については、人口減少・少子高齢化などの社会状況を踏まえると、今後ますます対象地域が増加することが予想されることから、さらなる利便性の向上及び利用促進を図るとともに、運行の効率化を行うことが求められています。玉城町においては、先進的な取組としてデマンドバスの予約システムを導入するなど、全国的にも注目される取組を行っています。

※伊勢志摩連絡道路

三重県志摩市阿児町を起点とし伊勢市二見町に至る延長約20kmの新たな幹線道路で、伊勢地域と志摩地域の中心都市を相互に連結強化する道路。

【図表 11】 伊勢志摩圏域の鉄道路線及び主な道路網



2 目指すべき将来像

伊勢志摩圏域は、それぞれの行政区域を越えて生活圏を共有し、社会・経済・教育などの面で結びつきも深く、これまでも消防・救急、ごみ処理、福祉施設の運営など、連携した取組を進め、効率的な行政運営を行ってきました。

現在、日本は人口減少社会へと突入し、少子高齢化の急速な進行、産業や経済のグローバル化、国や地方の厳しい財政状況など、長年にわたって築かれたこれまでの社会構造の再構築が求められる、大きな転換期にあります。

こうしたなか、今後も自主的自立的に地域の活性化と持続的な発展を継続していくためには、単独自治体での事業展開には限界があると同時に効率的ではないと考えられます。

伊勢志摩圏域においては、これまでに培われてきた連携や協力関係を尊重しつつ、それぞれの自治体が有する都市機能や地域資源など、それぞれの特色を生かした圏域づくりを進め、圏域住民のみならず、圏域内への来訪者にとっても魅力ある圏域を目指します。

3 圏域人口の将来展望

伊勢志摩定住自立圏を構成する各自治体では、これまでの人口動態を分析し、将来の人口の展望を示し、国立社会保障・人口問題研究所の平成 25 年 3 月推計の結果を基にした人口ビジョンを策定しています。そのため、圏域の将来人口の中長期の人口目標については、連携市町の人口ビジョンを踏まえて次のとおりとします。

	平成 32 年度 (2020 年)	平成 37 年度 (2025 年)	平成 42 年度 (2030 年)	平成 47 年度 (2035 年)	平成 52 年度 (2040 年)
圏域の 将来人口	253,238 人	241,807 人	231,087 人	221,479 人	212,792 人

※各市町策定の「人口ビジョン」により作成

4 将来像の実現に向けて

圏域内の各市町（行政）、関係団体、大学、企業、県等は、将来像の実現に向け、刻々と変化する圏域の現状及びその現状から捉えられる課題について、継続的に情報交換及び情報共有を行い、課題解決に向けた取組を進めることとします。

取組を進めるにあたっては、各市町における個別の取組を優先するものの、中心市と連携することにより、効果が高まる取組、効率的に実施できる取組、或いは1市町では実施することが難しい取組などについては、連携して取り組むこととします。

主な取組内容としては、圏域の課題を整理し、「生活機能の強化」「結びつきやネットワークの強化」「圏域マネジメント能力の強化」の3つの視点に立ち、医療・福祉、産業振興、公共交通などの各分野とします。特にそれぞれの分野における人材の確保及び育成、情報の集約及び発信について積極的に取り組むこととし、持続可能な公共サービスの提供、人口定住の促進に繋がります。

なお、具体的な取組内容については、第4章に記載します。

第4章

定住自立圏形成協定に基づき 推進する具体的取組

政策分野	施策名	取組事項
------	-----	------

◆生活機能の強化に係る政策分野

医療・福祉	医療体制の確保	休日・夜間応急診療所の維持運営	
		病院群輪番制の維持	
		医療受診適正化の啓発	
		在宅医療・介護連携の推進	
子育て環境の充実		病児・病後児の保育施設の運営	
		ファミリーサポートセンターの利用促進	
産業振興	商工業の振興	伊勢志摩総合地方卸売市場の経営基盤の確立	
		中小企業勤労者及び事業主への勤労者福祉制度の充実	
		企業立地の推進	
		イベント等の誘致・開催	
		創業に関する支援	
	農林漁業の振興	鳥獣被害防止対策	
	観光の振興		伊勢志摩地域への旅客誘致
			伊勢熊野地域への旅客誘致
			伊勢志摩国立公園の自然保護、PR、地域振興

◆結びつきやネットワークの強化に係る政策分野

公共交通	交通ネットワークの充実	廃止代替路線バスの維持	
		コミュニティバス運行の連携	
	道路網の整備促進		県道鳥羽松阪線の建設促進
			県道伊勢南島線の建設促進
			宮川架橋の建設促進
観光交通の渋滞緩和	伊勢地域周辺における交通渋滞の緩和		
地域の生産者、消費者等の連携による地産地消	地産地消の推進及び地場産品のPR推進	地産地消の推進、地場産品のPR	
地域内外の住民との交流	地域情報の共有化及び発信	圏域内外への地域情報等の情報発信	
	出会い・結婚への支援	出会い・結婚に関する情報提供等	
その他	図書館サービスの充実	図書館サービスの新たなしくみ構築	
	宮川流域の保全・活用	宮川流域情報の集約及び提供等	

◆圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野

人材育成	圏域市町職員・教職員の人材育成	職員研修の合同開催
		教職員研修講座の実施
	圏域内人材の育成	青少年健全育成の合同研修会の開催

ア 生活機能の強化に係る政策分野

1 医療・福祉

(1) 医療体制の確保

取組事項	休日・夜間応急診療所の維持運営							
連携市町	伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
	○			○	○			○
現状と課題	地域の休日・夜間における一次救急医療は、伊勢市の休日・夜間応急診療所にて行っている。このため、一次救急については、伊勢市が設置している診療所を維持継続する必要がある。小児科医の減少により、現状の小児科診療体制の維持が困難な状況である。							
事業の概要	伊勢市が伊勢地区医師会、伊勢地区歯科医師会及び伊勢薬剤師会に委託して実施する休日・夜間の一次救急医療体制(伊勢市休日・夜間応急診療所)を維持運営する。また、住民に対し、応急診療である旨の周知や受診マナーの啓発等を行う。							
期待される効果	休日・夜間の一次救急医療体制を確保することで、住民の休日・夜間における診療の不安を軽減するとともに健康管理に繋がる。							
中心市の役割	伊勢市休日・夜間応急診療所を維持運営する。							
連携市町の役割	伊勢市休日・夜間応急診療所の運営に必要な経費を人口比率に応じて負担する。							
事業費 (単位:千円)	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度			
	120,928	120,590	121,155	121,761	124,149			
実績額 (単位:千円)	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度			
	105,474	89,697	97,508	102,053				
実施スケジュール	具体的な内容	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	進捗状況	
	伊勢市休日・夜間応急診療所の運営						A 実施中	
取組の実績	成果指標	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標値	
	開所日数	365	366	365	365		365	
	利用者数	10,614	9,889	10,335	11,162		10,000	
今後の方向性	小児科医師不足により小児科診療が実施できなくなった経過があるため、小児科医師の確保に努めながら、関係機関とも調整を図り、現在の診療体制を維持していく。							
備考								

※事業費及び実績額は関係市町の合計額を記載しております。

※H29年度の実績額及び成果指標の値は現時点の集計による見込み額等です。

ア 生活機能の強化に係る政策分野

1 医療・福祉

(1) 医療体制の確保

取組事項	病院群輪番制の維持							
連携市町	伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
	○			○	○	○	○	
現状と課題	地域の休日・夜間における二次救急医療は、伊勢赤十字病院と市立伊勢総合病院の2総合病院が5:1の輪番制により行っている。							
事業の概要	地域内の2総合病院が輪番制により確保する二次救急医療体制の維持に必要な運営費の一部を助成する。							
期待される効果	二次救急医療体制を維持確保し、住民が24時間いつでも診療が受けられる体制の確保に繋がる。							
中心市の役割	病院群輪番制による救急医療について、運営費の一部を助成し支援する。							
連携市町の役割	病院群輪番制による救急医療について、運営を支援するため経費を人口比率に応じ負担する。							
事業費（単位：千円）	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度			
	34,526	34,739	34,597	34,526	34,526			
実績額（単位：千円）	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度			
	34,526	34,739	34,597	34,526				
実施スケジュール	具体的な内容	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	進捗状況	
	病院群輪番制病院への支援						A 実施中	
取組の実績	成果指標	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標値	
	開所日数(日赤・伊勢)	486	489	487	486		490	
	利用者数(日赤・伊勢)	17,566	18,191	18,270	18,668		18,200	
今後の方向性	一次救急医療体制に併せ、地域内2か所の総合病院が輪番制により休日及び夜間における重病救急患者の受け入れに対応する二次救急医療体制を確保するため、引き続き運営費の一部を助成し支援する。							
備考								

※事業費及び実績額は関係市町の合計額を記載しております。

※H29年度の実績額及び成果指標の値は現時点の集計による見込み額等です。

ア 生活機能の強化に係る政策分野

1 医療・福祉

(1) 医療体制の確保

取組事項	医療受診適正化の啓発							
連携市町	伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
	○			○	○	○	○	
現状と課題	圏域においては、地域の医療機関が連携し、医療機能に応じた医療機関の役割分担が進められている。軽症患者が二次救急を不適切に受診する例などにより、本来の医療機能を十分発揮できない場合が生じている。							
事業の概要	住民を対象として、救急時等における病状に応じた医療機関の適切な受診、「かかりつけ医」を持つこと等の啓発を、地域の実状を考慮して広報、CATV、救急・災害を考える集いなどで行う。							
期待される効果	「かかりつけ医」を持つことにより、平時の健康管理とともに、救急時においても適切な対応ができる体制整備が進められる。かかりつけ医と最寄の医療機関、および救急病院の役割分担についての理解も住民に広がり、適切な受診が促される。							
中心市の役割	連携市町と連携し、住民等への啓発等を行う。							
連携市町の役割	中心市と連携し、住民等への啓発等を行う。							
事業費（単位：千円）	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度			
	1,800	1,600	2,400	2,500	2,620			
実績額（単位：千円）	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度			
	1,166	1,469	1,507	1,488				
実施スケジュール	具体的な内容	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	進捗状況	
	広報、CATV、イベント等による住民への啓発						A 実施中	
取組の実績	成果指標	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標値	
	啓発活動回数	2	2	2	2		2	
	参加人数	500	600	700	700		600	
今後の方向性	圏域の救急医療体制を守るため医療について正しい知識を持っていただくよう引き続き連携市町と協力し啓発を行っていく。							
備考								

※事業費及び実績額は関係市町の合計額を記載しております。

※H29年度の実績額及び成果指標の値は現時点の集計による見込み額等です。

ア 生活機能の強化に係る政策分野

1 医療・福祉

(1) 医療体制の確保

取組事項	在宅医療・介護連携の推進							
連携市町	伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
	○			○	○		○	
現状と課題	在宅医療・介護連携については、その保険制度が異なることなどにより、多職種間の相互の理解や情報の共有が十分にできていないことなど、必ずしも円滑に連携がなされていない。高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、在宅医療と介護を一体的に提供するために必要な支援を行うことが求められる。							
事業の概要	地域の在宅医療・介護連携を支援する相談窓口を設置し、地域の医療・介護資源を把握するとともに、課題の抽出と対応策を検討し、解決に向けた取組につなげる。							
期待される効果	在宅医療・介護に関わる専門職の連携が円滑に行われることにより、高齢者の在宅生活支援に必要な体制の整備につながる。							
中心市の役割	在宅医療・介護連携支援センターの運営を推進し、関係市町と連携し、在宅医療・介護連携推進のために必要な取組を行う。							
連携市町の役割	中心市と連携するとともに、協議の上、事業の実施に必要な経費を負担する。							
事業費（単位：千円）	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度			
	-	-	-	5,000	15,000			
実績額（単位：千円）	-	-	-	5,000				
実施スケジュール	具体的な内容	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	進捗状況	
	立ち上げ準備				→		C 実施終了	
	事業の実施					→	A 実施中	
取組の実績	成果指標	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標値	
	在宅医療・介護連携支援相談窓口設置(H30年～)	/	/	/	-	/	1	
	連携推進会議の開催回数	/	/	/	-	/	2	
	在宅医療・介護等多職種研修回数	/	/	/	-	/	4	
今後の方向性	在宅医療・介護連携支援センターを核として関係市町が連携し、地域の医療機関と介護事業所等の関係者の連携を推進する。							
備考	事業内容 ア)地域の医療・介護の資源の把握／イ)在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討／ウ)切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進／エ)医療・介護関係者の情報共有の支援／オ)在宅医療・介護連携に関する相談支援／カ)医療・介護関係者の研修／キ)地域住民への普及啓発							

※事業費及び実績額は関係市町の合計額を記載しております。

※H29年度の実績額及び成果指標の値は現時点の集計による見込み額等です。

ア 生活機能の強化に係る政策分野

1 医療・福祉

(2) 子育て環境の充実

取組事項	病児・病後児の保育施設の運営							
連携市町	伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
	○			○	○	○	○	○
現状と課題	病気あるいは病気回復期にある集団保育が困難な児童(小学6年生まで)を保育できる専用施設「病児保育エンゼル」を有する小児医療機関に運営を委託している。住民への周知拡大が課題となっている。							
事業の概要	圏域内の住民の仕事と子育ての両立を支援するため、病児・病後児を専用施設で保育する事業を共同で実施して、広域利用の推進を図る。							
期待される効果	事業の普及啓発や利用者の拡大が期待できる。また、圏域内で安心して子育てができる環境を提供することができる。							
中心市の役割	事業の実施に必要な事務を行うとともに、住民への周知活動を行う。また、連携市町と協議の上、病児・病後児保育の実施に必要な経費を負担する。							
連携市町の役割	中心市と協議の上、事業の実施に必要な経費を負担する。また、中心市と連携して住民への周知活動を行う。							
事業費(単位:千円)	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度			
	13,956	14,274	14,274	14,078	15,246			
実績額(単位:千円)	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度			
	14,261	16,440	14,274	16,292				
実施スケジュール	具体的な内容	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	進捗状況	
	事業の実施及び費用負担						A 実施中	
	周知活動						A 実施中	
取組の実績	成果指標	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標値	
	利用者数	821	1,067	950	1,009		1,040	
今後の方向性	圏域内の住民の仕事と子育ての両立を支援するため、引き続き病児・病後児を専用施設で保育する事業を共同で実施して、広域利用の推進を図る。							
備考								

※事業費及び実績額は関係市町の合計額を記載しております。

※H29年度の実績額及び成果指標の値は現時点の集計による見込み額等です。

ア 生活機能の強化に係る政策分野

1 医療・福祉

(2) 子育て環境の充実

取組事項	ファミリーサポートセンターの利用促進							
連携市町	伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
	○			○	○	○	○	
現状と課題	伊勢市は単独(委託先:NPO法人三重みなみ子どもネットワーク)で、玉城町・度会町・大紀町・南伊勢町(及び大台町)は広域連携(委託先:NPO法人三重県子どもNPOサポートセンター、運営者:NPO法人三重みなみ子どもネットワーク)で事業を実施している。事業の安定運営に不可欠な提供会員の確保が課題となっている。							
事業の概要	子育ての手助けができる人(提供会員)を手助けが必要な人(依頼会員)の依頼に応じて紹介する事業について、各市町で実施する事業の充実に努めつつ、依頼会員の利便性向上を図るために、提供会員の相互利用の推進を図る。							
期待される効果	依頼会員の利便性向上と事業の安定運営を図ることができる。また、圏域内において就労する人に、安心して子育てができる環境を提供することができる。							
中心市の役割	連携市町と提供会員の情報を共有して、依頼会員に提供する。							
連携市町の役割	中心市と提供会員の情報を共有して、依頼会員に提供する。							
事業費(単位:千円)	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度			
	13,125	13,601	13,566	14,013	14,315			
実績額(単位:千円)	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度			
	13,247	13,501	13,565	14,013				
実施スケジュール	具体的な内容	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	進捗状況	
	情報交換・提供						A 実施中	
	提供会員数の拡大						A 実施中	
取組の実績	成果指標	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標値	
	利用者数	2,350	2,050	2,249	1,728		3,015	
	提供会員数	265	286	268	281		408	
今後の方向性	平成29年度は、広報いせやケーブルテレビ等活用し周知を行い、また、提供会員養成講座を実施し、提供会員数の拡大を図り、提供会員は増加した。今後も上記周知方法を活用し、引き続き事業の安定継続に必要な提供会員の確保を図る。							
備考								

※事業費及び実績額は関係市町の合計額を記載しております。

※H29年度の実績額及び成果指標の値は現時点の集計による見込み額等です。

ア 生活機能の強化に係る政策分野

2 産業振興

(1) 商工業の振興

取組事項	伊勢志摩総合地方卸売市場の経営基盤の確立							
連携市町	伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
	○	○	○	○	○		○	
現状と課題	伊勢志摩総合地方卸売市場については、自立経営への転換を図り、民間主導の経営化への移行について進めていくことが求められている。また、昭和57年に建設された当施設については、老朽化が進んでいることから、修繕及び設備更新を計画的に実施する必要がある。							
事業の概要	持続可能な経営が可能となるよう、経営改善に取り組む。							
期待される効果	生産者には確実な販路を、流通・小売業者には生鮮食料品の安定的・効率的な取引の場を提供できる。消費者には「安心・安全」な生鮮食料品の安定した供給を行うことができる。							
中心市の役割	連携市町(株主)と連携し、卸売市場の運営に関する調整や支援を行う。							
連携市町の役割	中心市(株主)と連携し、卸売市場の運営に関する協議や支援を行う。							
事業費(単位:千円)	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度			
	0	0	0	0	0	0		
実績額(単位:千円)	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度			
	0	0	0	0				
実施スケジュール	具体的な内容	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度		進捗状況
	経営改善	→						A 実施中
取組の実績	成果指標	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度		目標値
	繰越利益剰余金(千円)	△4,780	6,958	19,359	32,295			26,931
今後の方向性	伊勢志摩地域の拠点市場として、地域住民への生鮮食料品の安定供給と、地域生産者の安定的な販路維持を図るためにも、当卸売市場の経営の安定化は必要不可欠である。平成27年度には開業以来初めて累積黒字を計上したことから、今後も関係市町が連携して運営に関し調整、支援が必要である。							
備考	取組実績の成果指標としている繰越利益剰余金が目標値に向けて順調に伸びている理由として、空きテナントへの入居促進による使用料収入の増や低利融資への借換えによる支払利息の軽減、収支資金計画の見直し等、経営改善計画の着実な実施によるものとみている。							

※事業費及び実績額は関係市町の合計額を記載しております。

※H29年度の実績額及び成果指標の値は現時点の集計による見込み額等です。

ア 生活機能の強化に係る政策分野

2 産業振興

(1) 商工業の振興

取組事項	中小企業勤労者及び事業主への勤労者福祉制度の充実							
連携市町	伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
	○	○		○				
現状と課題	地域内における中小企業勤労者及び事業主の勤労者福祉制度については、充実しているとはいえない状況にある。また、それを支える一般社団法人伊勢地域勤労者福祉サービスセンターについては、一般社団法人への移行により、経営的感覚での運営を目指し取り組んでいるものの、厳しい財政状況にある。							
事業の概要	中小企業で働く勤労者の福祉向上と中小企業の発展を図るため、一般社団法人伊勢地域勤労者福祉サービスセンターに対し、事業運営に必要な管理運営費と事業費を補助対象とし、補助金を交付する。							
期待される効果	中小企業の振興を図ることにより、地域の活性化に繋がる。							
中心市の役割	伊勢市内に設置された一般社団法人伊勢地域勤労者サービスセンターと連携を図るとともに、連携市町と運営に関する協議及び支援を行う。							
連携市町の役割	事業所などに事業のPRを行うとともに、中心市と運営に関する協議及び支援を行う。							
事業費（単位：千円）	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度			
	13,284	13,284	13,284	13,284	13,284			
実績額（単位：千円）	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度			
	13,284	13,284	13,284	13,284	/			
実施スケジュール	具体的な内容	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	進捗状況	
	調整（負担割合、連携市町、サービス内容等）	→					A 実施中	
	広報活動	→					A 実施中	
	業務運営、管理、検証	→					A 実施中	
取組の実績	成果指標	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標値	
	センターの会員数 (4月1日現在)	4,280	4,439	4,688	4,951	/	5,500	
今後の方向性	当地域に所在する事業所のほとんどが中小規模の事業所である。中小事業所の福利厚生制度は、大企業と比較すると充実が困難な状況にある。また、就職先を検討する際に、福利厚生を判断材料とする求職者も多く、労働力確保のためにも充実を図る必要がある。このようなことから、行政としても支援を継続していく。							
備考								

※事業費及び実績額は関係市町の合計額を記載しております。

※H29年度の実績額及び成果指標の値は現時点の集計による見込み額等です。

ア 生活機能の強化に係る政策分野

2 産業振興

(1) 商工業の振興

取組事項	企業立地の推進								
連携市町	伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町	
	○	○	○	○	○		○		
現状と課題	伊勢志摩地域産業活性化協議会において、人材育成事業、ガイドブックの作成及び企業誘致活動として企業立地セミナーに連携して取り組んできたが、工業団地用地の減少や、各市町の政策の違いから、平成28年度以降は、企業立地セミナーの事業を休止する。企業立地は、最終的には自治体間の競争となることが否めない面があることから、今後、連携する取組項目を企画することが課題となっている。								
事業の概要	当該地域における産業集積の形成及び産業集積活性化のために基本計画を策定し、当該地域の地方公共団体等が行う主体的かつ計画的な取組を行う。								
期待される効果	広域で連携して企業立地を促進することにより、圏域の経済活性化及び雇用の確保に繋がることが期待される。								
中心市の役割	伊勢志摩地域産業活性化協議会の事務局として、基本計画の策定、変更及び基本計画に定めた目標達成のために実施する事業等の調整を行う。								
連携市町の役割	伊勢志摩地域産業活性化協議会の構成団体として中心市と共に事業の実施を行う。								
事業費（単位：千円）	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度				
	2,910	3,627	300	302	0				
実績額（単位：千円）	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度				
	2,649	3,625	304	304					
実施スケジュール	具体的な内容	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度		進捗状況	
	人材育成事業	→					C 実施終了		
	ガイドブック作成	→					A 実施中		
	企業立地セミナー	→							C 実施終了
	三重県主催企業セミナーでのPR					→		A 実施中	
取組の実績	成果指標	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度		目標値	
	企業立地件数	8	6	7	12			12	
今後の方向性	伊勢志摩地域は工業団地が少なく、大規模な工業団地が無い状況である。各市町において、優遇制度により誘致施策を講じているが、地域外からの誘致については厳しいところがある。今後も、優遇制度等により地域内企業の流出を防止する施策を講じながら、引き続き地域外からの企業誘致について取り組んでいく。								
備考	<ul style="list-style-type: none"> 平成23年7月27日基本計画同意、平成27年3月31日まで。 平成27年4月1日基本計画更新、平成32年3月31日まで。 事業所数(製造業及び宿泊施設)の推移 平成25年 842、平成26年 823、平成27年 885 								

※事業費及び実績額は関係市町の合計額を記載しております。

※H29年度の実績額及び成果指標の値は現時点の集計による見込み額等です。

ア 生活機能の強化に係る政策分野

2 産業振興

(1) 商工業の振興

取組事項	イベント等の誘致・開催							
連携市町	伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
	○	○	○	○	○	○	○	○
現状と課題	平成25年の神宮式年遷宮を契機として伊勢志摩圏域の知名度・魅力度は向上しており、これを一過性のものとしないうちにも、継続的に圏域の魅力を発信することが求められている。							
事業の概要	圏域内の多産業への経済波及と交流人口の拡大を図るため、圏域市町、県、民間団体等が集客力・発信力の高いイベント等を誘致・開催する。							
期待される効果	圏域内の多産業への経済波及が期待されるとともに、伊勢志摩圏域の魅力が国内外に発信されることによる交流人口の拡大等に繋がる。							
中心市の役割	各イベント等の誘致及び開催に取り組む組織等において、連携市町と連携し、必要な取組を行う。							
連携市町の役割	各イベント等の誘致及び開催に取り組む組織等において、中心市と連携し、必要な取組を行う。							
事業費（単位：千円）	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度			
	—	43,000	64,607	35,050	4,000			
実績額（単位：千円）	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度			
	—	43,000	48,165	35,103				
実施スケジュール	具体的な内容	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	進捗状況	
	「第27回全国菓子大博覧会・三重」の開催		→				C 実施終了	
	主要国首脳会議(サミット)の開催		→				C 実施終了	
	「SAKE selection」の開催					→	A 実施中	
取組の実績	成果指標	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標値	
	誘致・開催件数		0	1	1		2	
今後の方向性	平成25年度の神宮式年遷宮や平成28年度の伊勢志摩サミットを契機として伊勢志摩地域の知名度が向上していたこともあって、平成29年度の第27回全国菓子大博覧会では58万人の入場者があり、ほぼ満足できる結果であった。今後も必要に応じて、誘致に取り組む組織等において関係市町が連携した取組を行う。							
備考								

※事業費及び実績額は関係市町の合計額を記載しております。

※H29年度の実績額及び成果指標の値は現時点の集計による見込み額等です。

ア 生活機能の強化に係る政策分野

2 産業振興

(1) 商工業の振興

取組事項	創業に関する支援							
連携市町	伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
	○	○	○	○	○	○	○	○
現状と課題	これまで地域経済を支えてきた中小企業・小規模事業者の数が年々減少を続けており、地域の活力が失われつつある。また、進学や就職などの理由で地域を離れ愛知県等3大都市圏へ転出する若者が後を絶たず、人口減少に拍車をかけている。このような状況において、新たな地域経済の担い手を創出するため、創業の促進が求められている。							
事業の概要	産業の振興、雇用の創出を図るため、創業を支援する。							
期待される効果	圏域における創業を促進することで、新たな担い手による地域産業の振興及び雇用の創出につながる。							
中心市の役割	連携市町及び関係機関等と連携し、創業に関する支援を行う。							
連携市町の役割	中心市及び関係機関等と連携し、創業に関する支援を行う。							
事業費（単位：千円）	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度			
	-	-	-	12,324	19,508			
実績額（単位：千円）	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度			
	-	-	-	9,149				
実施スケジュール	具体的な内容	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	進捗状況	
	UIJターン創業支援セミナーの開催						A 実施中	
	UIJターン創業に関する情報の収集・発信、共有						A 実施中	
	UIJターン創業希望者への補助の実施						A 実施中	
取組の実績	成果指標	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標値	
	セミナー参加者数				34		20	
	補助件数				8		5	
今後の方向性	新たな地域経済の担い手の創出や若者等の移住・定住を促進するため、連携市町及び関係機関等と連携し、UIJターンを希望する方に向けた創業セミナーや創業支援等を行い、圏域における創業の促進に取り組んでいく。							
備考								

※事業費及び実績額は関係市町の合計額を記載しております。

※H29年度の実績額及び成果指標の値は現時点の集計による見込み額等です。

ア 生活機能の強化に係る政策分野

2 産業振興

(2) 農林漁業の振興

取組事項		鳥獣被害防止対策							
連携市町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
		○	○	○	○	○	○	○	○
現状と課題		鳥獣被害防止対策は、既に各市町において取り組んでいるが、農作物等への被害に苦慮している状況である。今後も各市町での取り組みを進めながらも、圏域で連携・協力しながら鳥獣被害防止対策を実施していくことが有効である。							
事業の概要		有害鳥獣による農林水産業被害を防止するため、関係市町と連携して対策を実施する。							
期待される効果		関係市町が連携して対策を実施することにより、効果的な被害防止を図ることができる。							
中心市の役割		連携市町と鳥獣被害対策に関する情報交換等を行う。必要に応じ、連携市町と共同して鳥獣被害防止対策を行い、効果的な被害対策を行う。							
連携市町の役割		中心市と鳥獣被害対策に関する情報交換等を行う。必要に応じ、中心市と共同して鳥獣被害防止対策を行い、効果的な被害対策を行う。							
事業費（単位：千円）		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度			
		0	0	0	0	0			
実績額（単位：千円）		0	0	0	0				
実施スケジュール	具体的な内容	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	進捗状況		
	連携して行う事業を検討	→					A 実施中		
取組の実績	成果指標	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標値		
	駆除件数	3,851	5,690	5,834	7,045				
	鳥獣被害額(千円)	87,635	78,035	71,938	90,596				
今後の方向性		有害鳥獣による被害は、各市町にて捕獲時活動や追い払い、柵の設置等それぞれ対策を講じているが有害鳥獣の繁殖率は高く依然として収まる様子はない。H28年度には、伊勢市が南伊勢町への視察を行うなど、近隣市町の優良事例を学ぶ機会があった。H29年度は圏内の市町が集まり連携して行う事業の検討を行った。今後も、情報共有を行いながら、効果的な整備、捕獲の実施等を引き続き行っていく必要がある。							
備考									

※事業費及び実績額は関係市町の合計額を記載しております。

※H29年度の実績額及び成果指標の値は現時点の集計による見込み額等です。

ア 生活機能の強化に係る政策分野

2 産業振興

(3) 観光の振興

取組事項	伊勢志摩地域への旅客誘致							
連携市町	伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
	○	○	○	○	○		○	○
現状と課題	地域間で連携し、伊勢志摩地域の誘客宣伝・誘致活動を行うことにより伊勢志摩地域を活性化する。							
事業の概要	伊勢志摩地域の情報発信、修学旅行等の誘致、伊勢志摩キャンペーン(伊勢神話への旅)の実施、伊勢志摩観光振興プランの策定等、伊勢志摩地域への旅客誘致を図る。							
期待される効果	伊勢志摩地域の魅力創出・発信を行うことによる、伊勢志摩地域への観光客の増大並びに観光振興による地域間連携の強化等に繋がる。							
中心市の役割	伊勢志摩観光コンベンション機構における連携事業を中心とし、連携市町と連携し、必要な取組を行う。							
連携市町の役割	伊勢志摩観光コンベンション機構における連携事業を中心とし、中心市と連携し、必要な取組を行う。							
事業費(単位:千円)	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度			
	38,275	38,506	49,215	40,620	39,423			
実績額(単位:千円)	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度			
	38,375	61,615	49,315	41,520				
実施スケジュール	具体的な内容	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	進捗状況	
	観光情報の発信	→					A 実施中	
	伊勢志摩キャンペーンの実施	→					C 実施終了	
	学生団体の誘致活動等	→					A 実施中	
取組の実績	成果指標	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標値	
	旅客数(万人)	3,044	2,701	2,759	2,852		2,686	
今後の方向性	伊勢志摩地域の観光客を増加させるには、地域が一体となって取り組むことが重要であるため、実施する事業については随時見直しを行いながら、今後も積極的に進めていきたい。なお、伊勢志摩キャンペーンについては、平成25年の式年遷宮に向けた取組で一定の役割を果たしたことから、平成29年度をもって一旦休止することとなった。							
備考	伊勢志摩観光コンベンション機構負担金:伊勢市、鳥羽市、志摩市、玉城町、度会町、南伊勢町、明和町、松阪市、三重県他民間団体 旅客数は三重県観光レクリエーション入込客推計(延数)。目標値はH24実績の5%増(伊勢志摩観光振興プランに準ずる)。							

※事業費及び実績額は関係市町の合計額を記載しております。

※H29年度の実績額及び成果指標の値は現時点の集計による見込み額等です。

ア 生活機能の強化に係る政策分野

2 産業振興

(3) 観光の振興

取組事項	伊勢熊野地域への旅客誘致							
連携市町	伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
	○	○		○		○		
現状と課題	歴史的に参拝客を魅了してきた伊勢・熊野地域で協力して宣伝事業に取り組んでいるところであるが、平成25年の「伊勢神宮式年遷宮」と平成26年の「熊野古道世界遺産登録10周年」を核とした情報発信を行い、更なる伊勢熊野地域への旅客誘致に取り組む必要がある。							
事業の概要	お伊勢参りと熊野詣でを目的とした旅客の誘致を行い、関係団体間の相互の情報交換及び情報発信に取り組む。							
期待される効果	伊勢熊野地域の魅力創出・発信を行うことによる、伊勢熊野地域への観光客の増大に繋がる。							
中心市の役割	伊勢熊野観光連絡協議会の事務局運営を行い、連携市町との連絡調整、事業の調整を行う。							
連携市町の役割	伊勢熊野観光連絡協議会の構成団体として中心市と共に必要な取組を行う。							
事業費（単位：千円）	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度			
	9,853	7,124	300	300	300			
実績額（単位：千円）	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度			
	6,703	4,152	300	300				
実施スケジュール	具体的な内容	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度		進捗状況
	観光パンフレットの作成・増刷	→						A 実施中
	ノベルティの作成	→						A 実施中
	PRイベントの開催	→						A 実施中
取組の実績	成果指標	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度		目標値
	熊野古道来訪者数	428,698	352,262	327,534	337,046			441,000
今後の方向性	熊野古道来訪者数は、世界遺産指定10周年であった平成26年をピークに減少傾向にあるが、引き続き関係市町と連携し、熊野古道地域への誘客に努めていく。							
備考								

※事業費及び実績額は関係市町の合計額を記載しております。

※H29年度の実績額及び成果指標の値は現時点の集計による見込み額等です。

ア 生活機能の強化に係る政策分野

2 産業振興

(3) 観光の振興

取組事項	伊勢志摩国立公園の自然保護、PR、地域振興							
連携市町	伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
	○	○	○				○	
現状と課題	<p>一般財団法人伊勢志摩国立公園協会、伊勢志摩国立公園自然ふれあい推進協議会に加盟し、情報発信、自然観察、清掃活動などを実施している。 伊勢志摩サミット開催の効果もあり、自然観察を行う観光客が増加している。 国立公園を世界水準の「ナショナルパーク」へと改革していく「国立公園満喫プロジェクト」が平成28年度より開始され、先行的に取り組む全国8箇所の国立公園の一つに伊勢志摩国立公園が選定された。 これにより老朽化が進んでいる施設などを順次整備していく。 伊勢志摩国立公園は市町をまたいでいることから、関係市町と連携を図りながら進めていく必要がある。</p>							
事業の概要	<p>調査研究、保護維持、開発改善、紹介宣伝、目的を同じくする他団体との情報共有の他、自然ふれあい活動の推進・普及啓発、自然情報の収集・提供、調査研究、地域交流、美化清掃、横山ビジターセンターの管理運営等に取り組む。 また、国立公園満喫プロジェクトの開始に伴い、地域協議会で作成した「ステップアッププログラム2020」の達成に必要な活動に取り組む。</p>							
期待される効果	伊勢志摩地域の自然を目的に訪れる観光客が増加することに繋がる。							
中心市の役割	一般財団法人伊勢志摩国立公園協会、伊勢志摩国立公園自然ふれあい推進協議会を活用するなどし、関係市町と連携し必要な取組を行う。							
連携市町の役割	一般財団法人伊勢志摩国立公園協会、伊勢志摩国立公園自然ふれあい推進協議会を活用するなどし、中心市と連携し、必要な取組を行う。							
事業費（単位：千円）	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度			
	11,966	21,966	18,966	11,966	11,966			
実績額（単位：千円）	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度			
	11,966	21,966	18,966	11,966	/			
実施スケジュール	具体的な内容	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	進捗状況	
	70周年記念行事		→				C 実施終了	
	ポスターカレンダーの製作				→		A 実施中	
	清掃活動、緑化促進、自然観察会等の実施				→		A 実施中	
取組の実績	成果指標	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標値	
	自然観察会の参加者数	270	347	379	369	/	500	
	横山ビジターセンターの利用者数	14,715	29,212	73,837	50,112	/	45,000	
今後の方向性	<p>既に取り組んでいる、伊勢志摩国立公園の自然保護、PR、地域振興のほか、平成28年度より環境省が開始した国内の国立公園を世界水準の「ナショナルパーク」へと改革していく「国立公園満喫プロジェクト」において、伊勢志摩国立公園が、先行的・集中的に取り組む8箇所の国立公園の内の一つとして選定されたことから、関係機関と連携を図り平成32年までに訪日外国人を惹きつける取組を実施していく。</p>							
備考	<p>平成28年度においては、G7伊勢志摩サミット開催に伴い、リアス式海岸等の伊勢志摩国立公園を象徴するような景色がメディアでクローズアップされたことにより、横山ビジターセンターを訪れる方が大幅に増加したため、目標値を大きく上回る結果となった。 なお、横山ビジターセンターにおける訪日外国人利用者数については、観光バス1台全てが外国人が訪れるなど増加しているのは間違いないが、具体的な人数については現在把握しておらず、今後どのように把握していくか模索しているとのこと。</p>							

※事業費及び実績額は関係市町の合計額を記載しております。※H29年度の実績額及び成果指標の値は現時点の集計による見込み額等です。

イ 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野

1 公共交通

(1) 交通ネットワークの充実

取組事項	廃止代替路線バスの維持							
連携市町	伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
	○			○				
現状と課題	玉城線は赤字路線であるが、地域住民の交通手段として、赤字相当額を伊勢市と玉城町が距離按分により補填し、路線を維持している。							
事業の概要	地域住民の交通手段として玉城線を維持するため、今後は、国の補助基準が満たせられるような利用促進を行っていく。							
期待される効果	交通手段を有しない交通弱者(高齢者等)が、通院や買い物に利用する。また、通勤や通学に利用される。							
中心市の役割	連携市町と連携し、相互の地域住民の意見を調整し、公共交通の充実の推進に必要な取組を行う。							
連携市町の役割	中心市と連携し、相互の地域住民の意見調整に協力し、公共交通の充実の推進に必要な取組を行う。							
事業費 (単位:千円)	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度			
	7,555	7,566	7,810	8,158	8,737			
実績額 (単位:千円)	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度			
	7,554	7,510	7,471	8,158				
実施スケジュール	具体的な内容	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度		進捗状況
	廃止代替路線バス玉城線の維持	—————→					A 実施中	
取組の実績	成果指標	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度		目標値
	利用者数	30,095	29,741	28,626	28,364			30,000
今後の方向性	交通手段を有しない交通弱者(高齢者等)の通院や買い物、通勤・通学に利用しているため、関係市町と連携の上、利用促進を図りながら路線の維持・確保を継続していく。							
備考								

※事業費及び実績額は関係市町の合計額を記載しております。

※H29年度の実績額及び成果指標の値は現時点の集計による見込み額等です。

イ 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野

1 公共交通

(1) 交通ネットワークの充実

取組事項	コミュニティバス運行の連携							
連携市町	伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
	○			○	○			○
現状と課題	各市町においてそれぞれコミュニティバスを運行しているが、通院、買い物等を行う上で生活圏と行政域が一致していない場合がある。圏域住民の交通手段を確保するため、既存の公共交通も利用しながら交通ネットワークの充実を図ることが求められている。							
事業の概要	圏域住民の交通手段を確保するため、コミュニティバス運行の連携等交通ネットワークの充実を推進する。							
期待される効果	利用者の利便性向上及び地域間のネットワーク強化に繋がる。							
中心市の役割	連携市町と連携し、相互の地域住民の意見を調整し、コミュニティバス運行の連携等、交通ネットワークの充実の推進に必要な取組を行う。							
連携市町の役割	中心市と連携し、相互の地域住民の意見調整に協力し、コミュニティバス運行の連携等、交通ネットワークの充実の推進に必要な取組を行う。							
事業費（単位：千円）	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度			
	0	0	22,707	19,224	16,920			
実績額（単位：千円）	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度			
	0	0	15,035	15,275				
実施スケジュール	具体的な内容	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度		進捗状況
	コミュニティバスの連携についての協議					→		A 実施中
	コミュニティバス相互利用の実施					→		A 実施中
取組の実績	成果指標	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度		目標値
	利用者数	0	0	13,160	27,018	/		24,820
今後の方向性	圏域住民の交通手段を確保するため、コミュニティバス運行の連携等交通ネットワークの充実を推進していく。							
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉バスの運行(玉城町) 玉城町保健福祉会館～伊勢市小俣図書館 ・沼木バスの運行(伊勢市) 買い物コースで度会町のスーパーを經由 ・町民バスの運行(度会町) 町民バスと沼木バスの接続(グッティ、プライスカット) ・おかげバスの運行(伊勢市) 「東大淀・日赤ルート」の明和町(山大淀)までの運行区間延長 ・町民バスの運行(明和町) 町民バスとおかげバスの接続(大淀、山大淀) 							

※事業費及び実績額は関係市町の合計額を記載しております。

※H29年度の実績額及び成果指標の値は現時点の集計による見込み額等です。

イ 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野

1 公共交通

(2) 道路網の整備促進

取組事項	県道鳥羽松阪線の建設促進							
連携市町	伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
	○	○						
現状と課題	県道鳥羽松阪線の伊勢市から鳥羽市の区間は、道路巾も狭く、交通量の増加により渋滞が発生し、事業の早期完成をめざして、昭和53年度に協議会が設置された。未改良は伊勢管内の約600m(御幸道路～五十鈴川左岸堤防付近)のみとなり、渋滞解消に向け、早期の全線開通が望まれている。							
事業の概要	県道鳥羽松阪線伊勢鳥羽地区改良促進連絡協議会を設置し、鳥羽市及び地元関係住民相互間の連絡調整を図り、道路管理者である三重県に提案活動を行う。							
期待される効果	県道鳥羽松阪線が、改良されることにより、相互間の時間短縮及び交通安全対策を図ることができる。またそのことにより、生活圏の拡大と利便性が向上する。							
中心市の役割	県道鳥羽松阪線伊勢鳥羽地区改良促進連絡協議会を運営し、鳥羽市及び地元関係住民相互間の意見をまとめ、三重県に提案活動を行う。							
連携市町の役割	中心市と連携し、三重県に提案活動を行う。							
事業費 (単位:千円)	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度			
	0	0	0	0	0	0		
実績額 (単位:千円)	0	0	0	0	/			
実施スケジュール	具体的な内容	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	進捗状況	
	要望活動	→					A 実施中	
取組の実績	成果指標	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標値	
	要望活動の実施回数	1	1	1	1	/	1	
今後の方向性	これまでの要望活動により国道42号交差点～五十鈴橋区間は完了したが、五十鈴橋～御幸道路交差点の未完成区間である約600mについて、引き続き要望活動を行っていく。							
備考								

※事業費及び実績額は関係市町の合計額を記載しております。

※H29年度の実績額及び成果指標の値は現時点の集計による見込み額等です。

イ 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野

1 公共交通

(2) 道路網の整備促進

取組事項	県道伊勢南島線の建設促進							
連携市町	伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
	○				○		○	
現状と課題	県道伊勢南島線は、南伊勢地域の発展に極めて重要な役割があるが、道路巾が狭く、交通量の増加により交通事故や渋滞が発生し、事業の早期完成をめざして、昭和62年度に同盟会が設置された。新野見坂トンネル開通、津村バイパス供用開始により利便性は向上したが、度会町地内の局所的な浸水、伊勢市中島二丁目付近の歩道未整備等の課題が残っている。							
事業の概要	伊勢南島線道路改良促進期成同盟会の意見をとりまとめ、道路管理者である三重県に提案活動及び危険箇所等の勉強会を行う。							
期待される効果	県道伊勢南島線が、改良されることにより、相互間の時間短縮及び交通安全対策を図ることができる。またそのことにより、生活圏の拡大と利便性が向上する。							
中心市の役割	伊勢南島線道路改良促進期成同盟会を運営し、連携市町の相互間の意見をまとめ、三重県に提案活動を行うとともに危険箇所等の勉強会を行う。							
連携市町の役割	中心市と連携し、三重県に提案活動を行うとともに危険箇所等の勉強会を行う。							
事業費（単位：千円）	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度			
	0	0	0	0	0	0		
実績額（単位：千円）	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度			
	0	0	0	0	0			
実施スケジュール	具体的な内容	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度		進捗状況
	要望活動	→						A 実施中
取組の実績	成果指標	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度		目標値
	勉強会の実施回数	1	1	1	1	0		1
今後の方向性	これまでの要望活動により、道路改良は完了したが、浸水や交通安全上危険な箇所が局所的に存在するため、三重県との勉強会を通じてこれらの課題を解決していく。							
備考								

※事業費及び実績額は関係市町の合計額を記載しております。

※H29年度の実績額及び成果指標の値は現時点の集計による見込み額等です。

イ 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野

1 公共交通

(2) 道路網の整備促進

取組事項	宮川架橋の建設促進							
連携市町	伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
	○			○	○			
現状と課題	宮川には橋梁の本数が少なく、通勤時間帯には、度会橋に集中し、慢性的な渋滞が発生している。また、県道伊勢南島線は、度会町と伊勢市内で冠水し自然災害に対しても脆弱な道路ネットワークとなっている。伊勢度会地域の「命の道」を確保するため新たな橋が必要で、平成21年に宮川架橋建設推進協議会が設立された。							
事業の概要	宮川架橋の早期実現を図るため、必要な資料の収集や分析を行い、関係機関に提案活動を行う。							
期待される効果	宮川架橋が建設されることにより、相互の連携・交流をより一層推進でき、地域住民の安全・安心な暮らしが守られる。							
中心市の役割	宮川架橋建設推進協議会を運営し、連携市町と意見調整を図り、宮川架橋の早期実現を図る。							
連携市町の役割	中心市と連携し、宮川架橋の早期実現を図る。							
事業費（単位：千円）	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度			
	150	150	150	150	150	150		
実績額（単位：千円）	150	150	150	150	/			
実施スケジュール	具体的な内容	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度		進捗状況
	要望活動、勉強会	→						A 実施中
取組の実績	成果指標	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度		目標値
	要望活動の実施回数	1	1	1	1	/		1
	勉強会の実施回数	1	0	1	1	/		1
今後の方向性	引き続き勉強会をつうじて調査研究を行い、要望活動を行っていく。							
備考								

※事業費及び実績額は関係市町の合計額を記載しております。

※H29年度の実績額及び成果指標の値は現時点の集計による見込み額等です。

イ 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野

1 公共交通

(2) 道路網の整備促進

取組事項	伊勢志摩連絡道路の建設促進							
連携市町	伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
	○	○	○				○	
現状と課題	一般国道167号並びに県道伊勢磯部線(伊勢道路)は、交通量の増加により、慢性的に交通混雑をきたし、特に観光シーズンには、円滑な通行に支障が出ている。その解消のためには、新しい道路が必要として、平成5年に同盟会が設立された。第二伊勢道路が平成25年9月に供用開始となり、今後、磯部バイパス、鵜方磯部バイパスの早期完成に努める。							
事業の概要	伊勢志摩連絡道路建設促進同盟会の意見をとりまとめ、国及び三重県に提案活動を行う。							
期待される効果	伊勢志摩連絡道路が開通することにより、相互間の時間短縮及び交通安全対策が図られる。それにより、生活圏の拡大と利便性が向上する。							
中心市の役割	連携市町と意見調整を行い、国及び三重県に提案活動を行う。							
連携市町の役割	中心市と連携し、提案活動を行う。							
事業費(単位:千円)	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度			
	247	150	150	150	150			
実績額(単位:千円)	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度			
	247	150	150	150	/			
実施スケジュール	具体的な内容	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度		進捗状況
	要望活動	→						A 実施中
取組の実績	成果指標	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度		目標値
	要望活動の実施回数	1	1	1	1	/		1
今後の方向性	これまでの要望活動により、第二伊勢道路等(松下JCT~鳥羽南白木IC)及び磯部バイパスは完了したが、未完成区間の早期完成に向け、引き続き要望活動を行っていく。							
備考								

※事業費及び実績額は関係市町の合計額を記載しております。

※H29年度の実績額及び成果指標の値は現時点の集計による見込み額等です。

イ 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野

1 公共交通

(3) 観光交通の渋滞緩和

取組事項	伊勢地域周辺における交通渋滞の緩和							
連携市町	伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
	○	○	○					
現状と課題	内宮周辺及び外宮周辺では、交通渋滞が頻繁に発生しており、来訪された方だけでなく、地域住民の生活や周辺市町への交通にも支障をきたしている。							
事業の概要	伊勢地域周辺における交通渋滞の緩和を図るため、交通渋滞に関する調査研究、駐車場対策及びパーク&バスライドの実施、交通情報の共有など、交通渋滞の緩和を推進する。							
期待される効果	観光交通の渋滞を緩和する。							
中心市の役割	連携市町及び関係団体と連携し、交通渋滞を緩和するために必要な取組を行う。							
連携市町の役割	中心市及び関係団体と連携し、伊勢地域の交通情報を共有するとともに、観光客への情報提供等を行う。							
事業費（単位：千円）	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度			
	349,662	100,229	89,320	89,230	72,001			
実績額（単位：千円）	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度			
	270,399	48,106	36,524	49,800				
実施スケジュール	具体的な内容	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	進捗状況	
	交通渋滞対策の実施						A 実施中	
取組の実績	成果指標	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標値	
	渋滞発生日数	5	7	21	8		25	
今後の方向性	平成30年度には、全国高等学校総合体育大会が開催され、期間中の会場や神宮周辺で交通渋滞が予想されるため、関係機関との連携とこれまで以上の公共交通機関利用促進が必要である。							
備考								

※事業費及び実績額は関係市町の合計額を記載しております。

※H29年度の実績額及び成果指標の値は現時点の集計による見込み額等です。

イ 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野

2 地域の生産者、消費者等の連携による地産地消

(1) 地産地消の推進及び地場産品のPR推進

取組事項	地産地消の推進、地場産品のPR							
連携市町	伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
	○	○	○	○	○	○	○	○
現状と課題	農業者の高齢化等により農業就業人口は減少傾向にある。圏域内の農林水産資源を圏域内外の消費者に知ってもらい、消費の拡大を図り、地域農林水産産業を活性化させることが課題となっている。							
事業の概要	農林水産物の消費拡大を図るため、地産地消及び農林水産物のPRを推進する。							
期待される効果	圏域内農林水産物の消費拡大による就業者の経営安定、地域農林水産産業の活性化を図る。							
中心市の役割	連携市町及び関係機関等と連携を図り、地産地消の普及啓発活動の推進や情報発信等に関する情報交換を行う。							
連携市町の役割	中心市及び関係機関等と連携を図り、地産地消の普及啓発活動の推進や情報発信等に関する情報交換を行う。							
事業費（単位：千円）	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度			
	0	0	3,750	7,320	3,180			
実績額（単位：千円）	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度			
	0	0	2,500	4,140				
実施スケジュール	具体的な内容	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度		進捗状況
	連携して行う事業を検討	→						A 実施中
	漁獲物の移動販売、漁協交流イベント・勉強会	→						A 実施中
	地産地消の学校給食	→						A 実施中
取組の実績	成果指標	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度		目標値
	地場産品PR活動の実施回数	54	52	55	85			55
今後の方向性	地産地消については、各市町においてそれぞれPR活動を行っている。また、H28年度まで近鉄列車にて地元産品を販売するうまいもん列車等、市町共同で行うイベントを行い連携しているところである。漁獲物についてはH28年度とH29年度に移動販売車を導入し連携しているところである。市単位での地産地消はもちろんだが、圏内における地産地消を推奨していくことも必要なので、今後も連携を図りながらPR活動等行っていきたい。また、食育の観点からも学校給食に地場産品を取り入れ、地産地消を推進していく。							
備考	平成28年12月に「地産地消の学校給食」の項目を追加							

※事業費及び実績額は関係市町の合計額を記載しております。

※H29年度の実績額及び成果指標の値は現時点の集計による見込み額等です。

イ 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野

3 地域内外の住民との交流

(1) 地域情報の共有化及び発信

取組事項	圏域内外への地域情報等の情報発信							
連携市町	伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
	○	○	○	○	○	○	○	○
現状と課題	各市町間における情報の共有化については、従来行われていないのが現状である。圏域住民に対して圏域内情報を積極的に発信することが求められている。 また、伊勢志摩サミットの開催や伊勢志摩国立公園のナショナルパーク化の決定により「伊勢志摩」の知名度が向上し、国内外での関心も高まっていることから、さらなるシティセールスに向けた情報戦略を展開していくことが必要である。							
事業の概要	圏域内のイベント、観光及び交通情報等地域の情報を共有化し、地域の内外へ広報紙、ホームページやケーブルテレビ等を活用することにより、情報発信を図る。 また、シティセールスの取組の一つとして、伊勢志摩ナンバー及び図柄入りナンバープレート(以下「ご当地ナンバー等」という。)の導入に向けた検討及び準備を行う。							
期待される効果	地域住民の活発な交流の促進に繋がる。 走る広告塔としてご当地ナンバー等で地域をPRすることで、地域振興や観光振興、住民の郷土愛や地域の一体感の醸成に繋がる。							
中心市の役割	圏域内地域の情報等の集約、把握及び整理を行い、連携市町へ提供する。 また、広報媒体を活用して圏域内外へ地域情報を発信する。							
連携市町の役割	各市町の地域情報を中心市へ提供するとともに、広報媒体を活用して圏域内外へ情報発信を行う。							
事業費 (単位:千円)	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度			
	0	0	0	2,083	1,089			
実績額 (単位:千円)	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度			
	0	0	0	1,891				
実施スケジュール	具体的な内容	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	進捗状況	
	調整・調査研究						A 実施中	
	情報集約・情報発信						A 実施中	
	ご当地ナンバー等の導入の検討・調整・準備						A 実施中	
取組の実績	成果指標	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標値	
	圏域内外への地域情報等の情報発信	4	3	7	8		10	
	ご当地ナンバー等の導入に係るアンケート等実施回数				1		1	
今後の方向性	引き続き、積極的な圏域市町での情報共有・情報発信に努める。 ご当地ナンバー等については、導入に向けてのアンケートの実施、図柄の選定、機運の醸成を図る。							
備考	平成25年度から試験的に開始。 今後は、南勢地域広報研究会研修会において、情報の共有及び発信方法等について検討する。ご当地ナンバー等については平成29年度から実施							

※事業費及び実績額は関係市町の合計額を記載しております。

※H29年度の実績額及び成果指標の値は現時点の集計による見込み額等です。

イ 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野

3 地域内外の住民との交流

(2) 出会い・結婚への支援

取組事項	出会い・結婚に関する情報提供等							
連携市町	伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
	○	○	○	○	○	○	○	○
現状と課題	人口減少が進む中、少子化対策が求められている。少子化の要因の一つに晩婚化・非婚化が挙げられる。結婚していない理由として「出会いがない」「理想の相手に出会えていない」ことがアンケート調査等の結果として出ている。今後、地域の活性化のためには、結婚を望む人が結婚でき、安心して子育てができる社会づくりが必要である。							
事業の概要	結婚を望む人達に対して、出会い・結婚や子育てに関する情報を提供するための拠点として、「いせ出会い支援センター」を設置し、情報提供、相談への対応、セミナーの開催などを行う。また、結婚のイメージアップを図るための啓発事業を開催する。							
期待される効果	圏域全体を対象とすることで出会いの機会を多く提供できるなど、より広範囲での出会いが期待できる。							
中心市の役割	「いせ出会い支援センター」において中心市及び連携市町で開催される出会いイベントの情報提供を行うなど、連携市町と連携し、効果的な企画・運営を行う。							
連携市町の役割	「いせ出会い支援センター」に対して連携市町で開催される出会いイベントの情報提供を行うなど、中心市と連携し、効果的な運営を補助する。							
事業費（単位：千円）	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度			
	-	-	13,183	17,925	16,029			
実績額（単位：千円）	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度			
	-	-	12,669	16,353				
実施スケジュール	具体的な内容	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	進捗状況	
	出会い・結婚に関する情報提供等						A 実施中	
	出会い・結婚に向けた相談への対応						A 実施中	
	セミナーの開催						A 実施中	
取組の実績	成果指標	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標値	
	センターの利用者数			3,068	2,765		3,000	
	結婚支援促進企業登録数				180		200	
今後の方向性	「いせ出会い支援センター」では、結婚を希望する人に様々な取り組みを進めているが、今後は結婚へ繋げていくことが課題である。そのため、市内及び定住自立圏域内市町の企業等に、従業員の結婚を応援する企業として、センターに登録を働きかけていくことで、地域全体で、安心して結婚、出産、子育てができる社会を目指す。							
備考								

※事業費及び実績額は関係市町の合計額を記載しております。

※H29年度の実績額及び成果指標の値は現時点の集計による見込み額等です。

イ 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野

4 その他

(1) 図書館サービスの充実

取組事項	図書館サービスの新たなしくみ構築							
連携市町	伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
	○	○	○	○	○	○	○	○
現状と課題	圏域内では、三重県立図書館のMILAI(三重県図書館情報ネットワーク)を活用した相互貸借により、蔵書の相互利用はできているものの、図書館の有無により、住民が受けられる公共図書館サービスにかなりの差が生じている。今後は、連携市町の住民がどこの図書館でも図書館のある市町の住民と同様のサービスが受けられるよう、サービス体制を整備する必要がある。							
事業の概要	公共図書館が連携し、利用者の利便性向上に向けた新たなしくみを構築する。							
期待される効果	圏域における図書館サービスの充実に繋がる。							
中心市の役割	利便性向上に向けた新たなサービスのしくみを検討・構築する。							
連携市町の役割	新サービスの構築に係る協議・検討とその円滑な運営に協力する。							
事業費(単位:千円)	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度			
	0	0	0	0	0	0		
実績額(単位:千円)	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度			
	0	0	0	0	/			
実施スケジュール	具体的な内容	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度		進捗状況
	新たなしくみの調査研究・調整	→						C 実施終了
	運用・効果の検証			→				A 実施中
	広報活動				→			A 実施中
取組の実績	成果指標	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度		目標値
	市町外住居者登録数	13,237	13,917	14,587	14,756	/		15,400
	市町外住居者貸出冊数	118,187	118,020	117,081	103,595	/		119,500
今後の方向性	運用を開始できていない図書館について、早急にサービス体制を整備する。運用中の図書館について、広報活動を行う。							
備考	※大紀町は公共図書館がないが、設置の際に上記サービス体制を整備する。 ※成果指標は各市町の住民以外の登録者とその貸出冊数の合計値							

※事業費及び実績額は関係市町の合計額を記載しております。

※H29年度の実績額及び成果指標の値は現時点の集計による見込み額等です。

イ 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野

4 その他

(2) 宮川流域の保全・活用

取組事項	宮川流域情報の集約及び提供等							
連携市町	伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
	○			○	○	○		○
現状と課題	宮川は何度も水質日本一に選ばれた全国有数の清流であり、宮川流域は、豊かな自然と特色ある歴史・文化に恵まれた地域である。この清流を後世に継承していくため、宮川流域の豊かな自然の保全・再生、健全な水循環の構築を進め、魅力ある流域づくりを継続していくことが、求められている。							
事業の概要	県及び1市6町(圏域外含む)で組織される宮川流域ルネッサンス協議会において、宮川流域情報の集約とその魅力の発信、清流宮川を守る住民活動への支援、上・中・下流域の交流促進による水環境保全に向けた流域意識の向上等に、連携して取り組む。							
期待される効果	住民の宮川流域への関心が高まり、環境問題への意識啓発や、魅力ある流域づくりに繋がることが期待される。							
中心市の役割	宮川流域ルネッサンス協議会へ職員を毎年度派遣する。							
連携市町の役割	宮川流域ルネッサンス協議会へ職員を6町(圏域外含む)で順次派遣する。							
事業費(単位:千円)	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度			
	1,900	1,900	1,900	1,900	1,200			
実績額(単位:千円)	1,900	1,900	1,900	1,900				
実施スケジュール	具体的な内容	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度		進捗状況
	宮川流域情報の集約及び提供等	→						A 実施中
	新事業方針の策定	→						C 実施終了
取組の実績	成果指標	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度		目標値
	親子デイキャンプの参加者数	113	103	112	112			100
今後の方向性	これまで協議会事務局主導の事業展開や住民等による活動主体の養成等といった役割から、住民等が主体となった様々な活動を流域一体となって情報発信するなど、魅力的な流域作りに向けた活動を広域的な観点で支える役割に特化する方向で31年度以降の事業方針を考えている。30年度は、魅力発信事業、地域活動支援、環境保全活動支援を実施する。							
備考								

※事業費及び実績額は関係市町の合計額を記載しております。

※H29年度の実績額及び成果指標の値は現時点の集計による見込み額等です。

ウ 圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野

1 人材育成

(1) 圏域市町職員・教職員の人材育成

取組事項	職員研修の合同開催							
連携市町	伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
	○	○	○	○	○	○	○	○
現状と課題	各市町それぞれにおいて研修計画を策定し実施している。圏域住民への行政サービスの向上のために、地域を牽引する人材の育成が必要である。							
事業の概要	職員の能力と資質を向上させ、圏域マネジメントの能力を高める合同研修を実施する。							
期待される効果	職員の能力と資質の向上及び市町間における職員の連携強化に繋がる。							
中心市の役割	効果が期待できる研修を企画し実施する。							
連携市町の役割	必要に応じて職員を合同研修に参加させる。							
事業費（単位：千円）	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度			
	850	850	1,125	1,100	818			
実績額（単位：千円）	0	215	74	357				
実施スケジュール	具体的な内容	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	進捗状況	
	合同研修の実施	→					A 実施中	
取組の実績	成果指標	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標値	
	開催回数	9	6	5	5		10	
	連携市町からの参加者数	10	18	8	11		70	
今後の方向性	各市町が参加しやすい時期、内容等を検討した上で今後も継続して、合同研修を実施していきたい。							
備考	平成25年度から開始。							

※事業費及び実績額は関係市町の合計額を記載しております。

※H29年度の実績額及び成果指標の値は現時点の集計による見込み額等です。

ウ 圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野

1 人材育成

(1) 圏域市町職員・教職員の人材育成

取組事項	教職員研修講座の実施							
連携市町	伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
	○	○	○	○	○	○	○	
現状と課題	伊勢市教育研究所が開催する研修講座には、既に圏域市町の教職員も参加しているが、今後、より連携を深め、効率的・効果的な研修運営をしていく必要がある。また、専門的かつ、地域の特性を活かした研修を実施するために、大学や高校との連携を促進する必要もある。							
事業の概要	教職員等を対象とした研修講座等を開催し、教職員の資質向上をもって教育力向上を図る。							
期待される効果	教職員の資質向上を図るとともに、教職員間の連携強化が期待できる。圏域の市町が連携することで、研修講座の効率的・効果的な運営が期待できる。							
中心市の役割	圏域で実施することが効果的な教職員向けの研修講座を企画・実施し、連携市町に対して当該研修への参加の機会を提供する。							
連携市町の役割	中心市が実施する教職員向けの研修講座に教職員を参加させるとともに、研修講座の運営に協力する。							
事業費（単位：千円）	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度			
	1,824	1,643	1,509	1,516	1,426			
実績額（単位：千円）	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度			
	1,251	1,406	1,107	921				
実施スケジュール	具体的な内容	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度		進捗状況
	教職員向け研修講座の実施					→		A 実施中
取組の実績	成果指標	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度		目標値
	開催回数	26	24	21	21			25
	連携市町からの参加者数	366	395	347	202			400
今後の方向性	いわゆる「ベテラン教員」の退職が増加することが見込まれることから、今後、若手教員を中心にさらなる資質向上が望まれる状況であり、研修体制の強化が急務である。							
備考								

※事業費及び実績額は関係市町の合計額を記載しております。

※H29年度の実績額及び成果指標の値は現時点の集計による見込み額等です。

ウ 圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野

1 人材育成

(2) 圏域内人材の育成

取組事項	青少年健全育成の合同研修会の開催							
連携市町	伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
	○	○	○	○	○	○	○	
現状と課題	青少年健全育成に関わる人材の育成については、継続的に取り組んでいく必要がある。連携市町の青少年育成市町民会議が企画し、基調講演、各地域における取り組みの事例発表を行っている。							
事業の概要	連携市町の青少年育成市町民会議だけでなく、地域における青少年の健全育成に関わる方に広く呼びかけるとともに、情報交換等も取り入れるなど実施方法を検討し、より充実した研修会とする。							
期待される効果	他の地域の取り組みを参考にできることから、それぞれの地域での活動の参考とし、圏域内の青少年の健全育成を図る。							
中心市の役割	連携市町と情報共有しながら、青少年の健全育成に努めるとともに、青少年健全育成に関する情報を連携市町へ提供する。							
連携市町の役割	中心市と連携し、地域住民による青少年健全育成活動を行う。							
事業費（単位：千円）	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度			
	100	100	100	100	100	100		
実績額（単位：千円）	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度			
	62	34	95	62	/			
実施スケジュール	具体的な内容	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度		進捗状況
	地域活動者研修の実施	—————→					A 実施中	
取組の実績	成果指標	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度		目標値
	開催回数	1	1	1	1	/		1
	参加者数	127	146	126	161	/		200
今後の方向性	今後も、年に1回合同研修会を開催し、開催経費についても継続して助成金で賄えるよう努めたい。							
備考								

※事業費及び実績額は関係市町の合計額を記載しております。

※H29年度の実績額及び成果指標の値は現時点の集計による見込み額等です。

伊勢志摩定住自立圏共生ビジョン

策 定 平成 26 年 6 月 16 日
第 1 回変更 平成 27 年 6 月 11 日
第 2 回変更 平成 28 年 6 月 30 日
第 3 回変更 平成 29 年 6 月 30 日
第 4 回変更 平成 29 年 10 月 17 日
第 5 回変更 平成 30 年 6 月 25 日

発行：平成 30 年 6 月

編集：伊勢市情報戦略局企画調整課

〒516-8501

三重県伊勢市御園町長屋 1221

TEL：0596-21-5510

FAX：0596-28-2404

Email：kikaku-cyousei@city.ise.mie.jp